

関市社会教育委員の会・関市公民館運営審議会 次第

日時：令和8年3月18日（水）

午後1時30分～

場所：わかくさ・プラザ 学習情報館
3階 3-2研修室

次第

- 1 関市民憲章・生涯学習都市宣言の唱和
- 2 あいさつ
- 3 関市社会教育委員の会
- 4 関市公民館運営審議会
- 5 その他

生涯学習都市宣言

私たちは
豊かな自然にめぐまれた
ふるさと“せき”を愛し
ときめく心で自らをみがき
きらめく人生を求めて
健康で生涯いきいきと
学んでいこう

関市民憲章

わたくしたちは 自然に恵まれた伝統ある刃物のま
ちの市民であることに誇りと責任を持ち 感謝の心
で郷土を住みよくするために みんなで力をあわせ
ます

育てよう ころ豊かなまちづくり
鍛えよう からだ丈夫なまちづくり
伸ばそう 希望あふれるまちづくり

令和7年度 第2回 関市社会教育委員の会

日時：令和8年3月18日（水）
午後1時30分～

場所：わかくさ・プラザ 学習情報館
3階 3-2研修室

1 議 事

① 学校と地域の連携に関する調査結果報告書について

資料1

2 令和8年度会議等開催予定

資料2



学校と地域の連携に関する調査結果報告書

令和8年1月

関 市

目次

1 学校と地域の連携に関する調査概要.....	1
2 小・中学校調査結果.....	2
3 地域委員会調査結果.....	26
4 結果まとめ.....	36

1 学校と地域の連携に関する調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、地域における学校と地域の連携活動の現状を理解するために実施しました。

現在の連携活動の実施状況、その評価、児童生徒への貢献、そして連携推進における課題や今後の意向など、多岐にわたる項目についてご意見を伺いました。

本報告書は、これらの調査結果に基づき、各主体の視点から連携の実態と課題を明らかにし、学校と地域が一体となって子どもたちの健やかな成長を支え、より良い教育環境を実現するための施策を検討する上での基礎資料とすることを目的としています。

(2) 調査対象

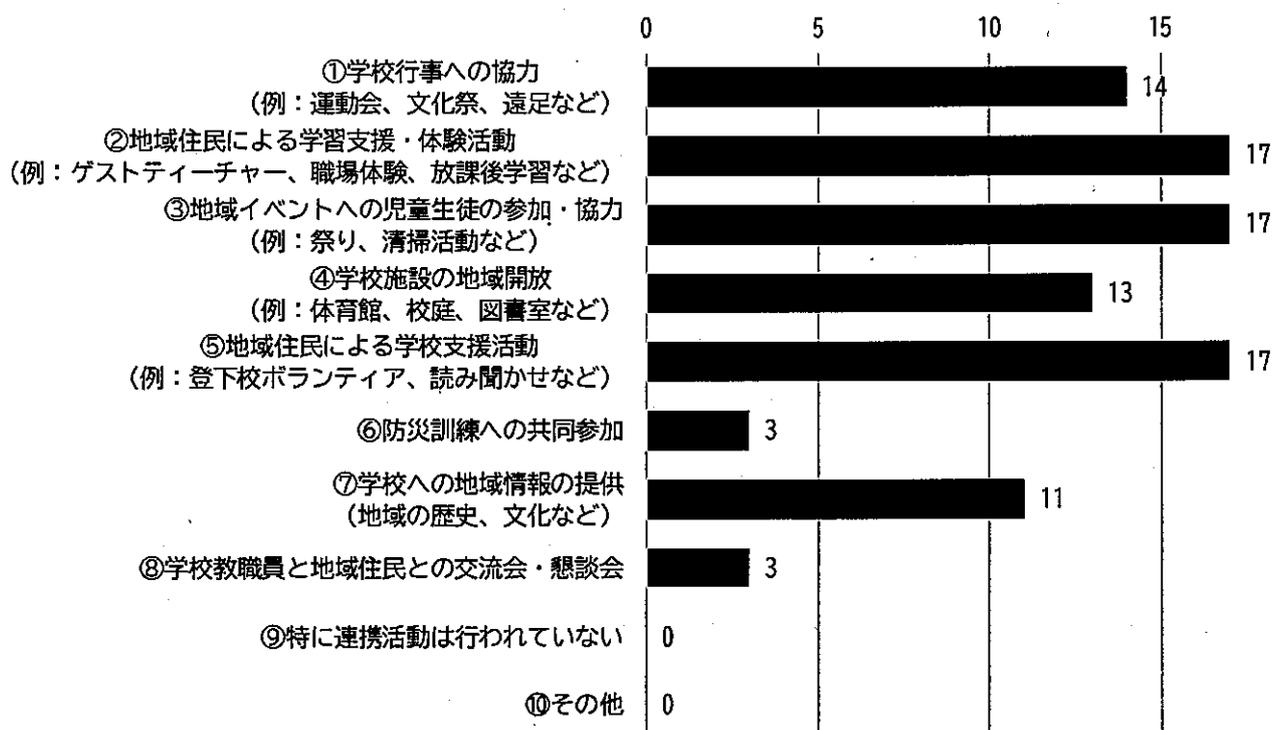
- | | |
|---------|------|
| ① 小学校 | 17校 |
| ② 中学校 | 9校 |
| ③ 地域委員会 | 15地域 |

2 小・中学校調査結果

(1) 現在、学校と地域との間で、どのような連携活動が行われていますか（複数回答）

【小学校】

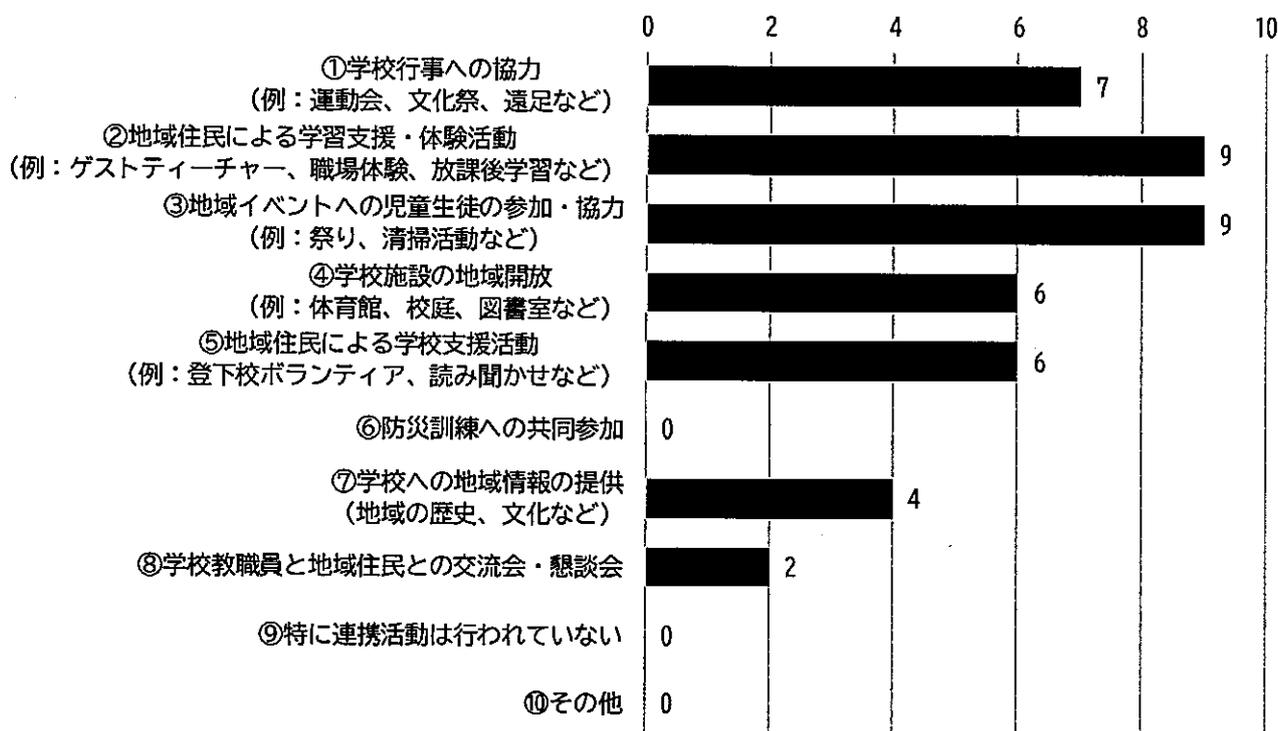
現在実施されている地域連携活動（小学校）



- ②「地域住民による学習支援・体験活動」、③「地域イベントへの児童生徒の参加・協力」、⑤「地域住民による学校支援活動」が全ての学校（17校）で実施されており、活発な連携が見られます。地域住民が児童生徒の教育活動や学校生活に直接的に関わる機会が多く、小学校教育において地域との連携が不可欠な要素となっている現状が現れています。
- ①「学校行事への協力」（14校）、④「学校施設の地域開放」（13校）、⑦「学校への地域情報の提供」（11校）も半数以上の学校で行われており、学校が地域の学習資源としての役割を担い、地域が学校の活動を支えるという双方向の関係性があることが伺えます。
- ⑥「防災訓練への共同参加」や⑧「学校教職員と地域住民との交流会・懇談会」は比較的实施割合が低く、これらの分野での連携強化の余地があると考えられます。

【中学校】

現在実施されている地域連携活動（中学校）

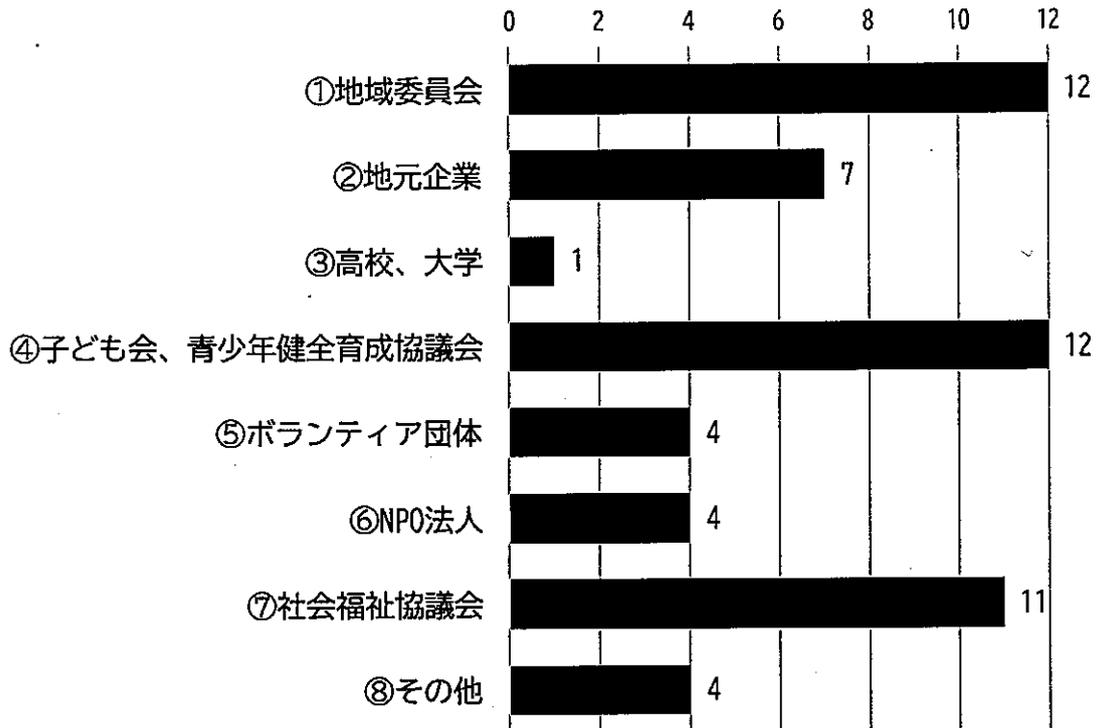


- ②「地域住民による学習支援・体験活動」と③「地域イベントへの児童生徒の参加・協力」が全ての学校（9校）で実施されています。これは小学校と同様に、地域が中学校の教育活動に深く関わり、生徒が地域社会と交流する機会が豊富であることを示しています。
- ①「学校行事への協力」（7校）や②「地域住民による学校支援活動」（6校）も高割合で実施されており、小学校と同様に地域全体で生徒たちの活動や安全を支える姿勢が見られます。
- ⑥「防災訓練への共同参加」は0校と、この分野での連携は今後の課題です。地域の災害拠点としての役割も考慮すると、防災連携の強化は重要であると言えます。

(2) 地域との連携活動について、どのような団体と連携をしていますか（複数回答）

【小学校】

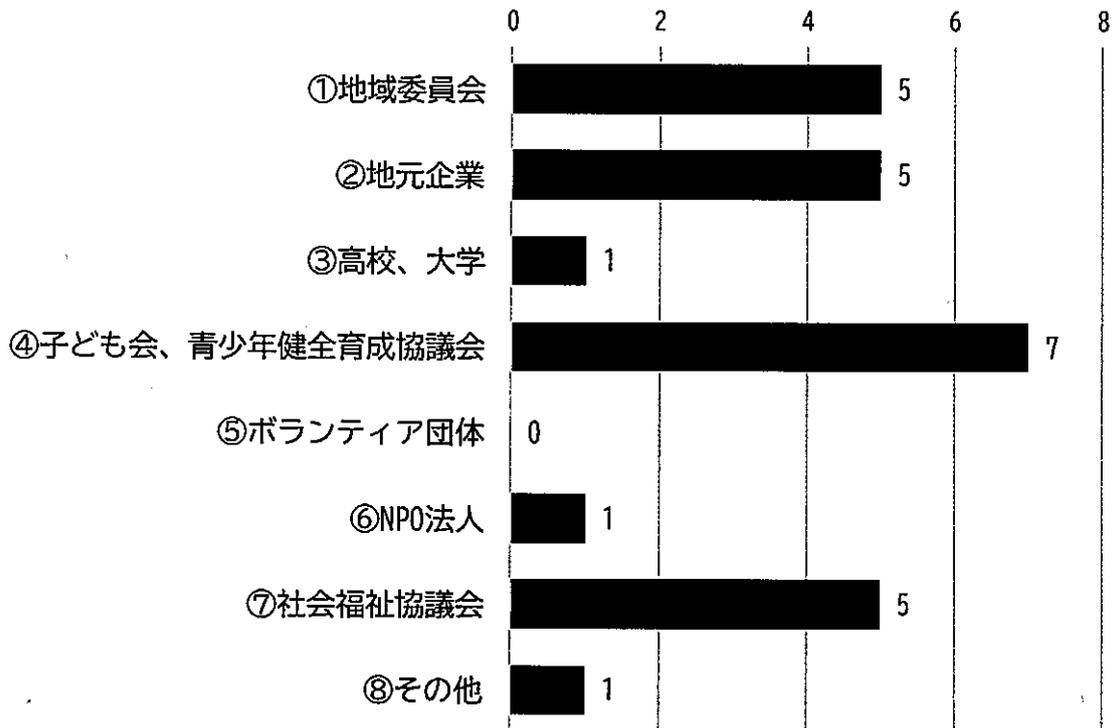
どのような団体と連携をしているか（小学校）



- ①「地域委員会」、④「子ども会、青少年健全育成協議会」がそれぞれ12校と最も多く挙げられています。地域委員会や子ども会は、地域に密着した活動を通じて、児童の健全な育成に貢献していると言えるでしょう。
- ⑦「社会福祉協議会」との連携も11校と多く、幅広い分野で地域との協力体制が築かれていることが分かります。
- ②「地元企業」との連携は7校と半数近くあり、キャリア教育や職業体験といった分野での協力があるようです。
- ⑧「その他」の記述では、「円空記念館」「FCぎふ」「高齢者クラブ」「鶴匠」などが挙げられていました。地域固有の文化・伝統・スポーツ・生活といった多様な資源を教育活動に取り込み、子どもたちが地域への理解を深める貴重な機会となっていることが分かります。
- ③「高校、大学」との連携は1校と少なく、高・大連携の必要性が今後の課題として考えられます。

【中学校】

どのような団体と連携をしているか（中学校）



- ④「子ども会、青少年健全育成協議会」が7校で最も多く、次いで①「地域委員会」、②「地元企業」、⑦「社会福祉協議会」がそれぞれ5校と高い割合で連携しています。小学校と同様に、地域に存在する多様な団体と連携していることが分かります。
- ②「地元企業」との連携も活発であり、生徒のキャリア教育を地域全体で支援しているようです。
- 一方で、「高校、大学」との連携は1校と少なく、小学校と同様に高・大連携の促進も今後の課題として挙げられます。

(3) 地域との連携について、特徴的な取り組みがあれば教えてください (自由記述・抜粋)

【小学校】

- 地域資源・産業学習: キウイ農家との連携、JAめぐみのとの米作り、林業学習、ふるさと遠足(獅子垣見学)など。
 - 多様な住民との交流: 高齢者クラブ「修徳会」との農業体験、社会福祉協議会による登下校見守り、武芸川きずな会議、防災ダンボールトイレ作成など。
 - 地域行事への参画と生徒貢献: 関にし秋の祭典、大学文化祭発表、地域参観日での活動、児童によるドローン・木工教室、特別支援学校との交流、地域のトンネル清掃活動など。
 - 地域からの幅広い支援: 地域コーディネーターの活用、修学旅行費補助など。
- ・小学校では、地域の自然、歴史、文化を教育課程に積極的に取り入れ、「ふるさと学習」を核とした体験活動が豊富に行われているようです。これらの取り組みが、子どもたちの郷土愛や地域への関心を育むことに貢献していることが伺えます。
- ・多様な専門性を持つ地域住民の知識や経験を学びの場に取り入れることで、子どもたちの学習意欲を高める工夫が見られます。

【中学校】

- 花届けや地域クリーンアップ活動を通じ、地域貢献と環境美化活動を実施。
 - 学校運営協議会に地域団体の代表者をメンバーとして位置付け、連携の円滑化を図っている。
 - イルミネーション、マラソン大会、地域防災元気フェスタといった地域行事に積極的に参加。
 - 総合的な学習や道徳の時間に、ゲストティーチャーによる授業、鮎釣り体験、森林教室、職場体験学習、職業講話など、地域と連携した多様な学習を展開。
 - ふれあい文化祭にて、学習や生徒会活動の発表、ダンス・合唱披露、出店の手伝い、ブース企画などを通じ地域を盛り上げている。
 - 1年生の工場見学や2年生の職場体験学習では、学校運営協議会が事業所とのアポイント調整を支援。
 - 山王山整備会と連携した軽登山や唐栗神社の清掃活動を通じ、地域の歴史を学ぶ体験学習を実施。
 - 「武芸川きずな会議」では、小中学生の代表が地域住民と地域の課題や夢について意見交換。
 - 地域ボランティア、おはようプロジェクト、生徒が地域活動に多様な形で参画している。
- ・中学校でも、地域での体験学習や地域行事への参加を通じて、生徒のキャリア教育や社会性の育成に力を入れていることが分かります。
- ・小学校と異なり、生徒が主体的に地域の課題に取り組む活動が見られ、生徒の成長段階に合わせた連携活動が行われています。

(4) 現在の学校と地域の連携状況について、どのように評価されていますか

【小学校】

非常に良好	・・・ 8校
ある程度良好	・・・ 8校
どちらともいえない	・・・ 1校
あまり良好ではない	・・・ 0校
全く良好ではない	・・・ 0校

- ・小学校では、現在の連携状況を「非常に良好」または「ある程度良好」と、ほぼ全ての学校が肯定的に評価しています。
- ・「どちらともいえない」と回答した学校が1校ありますが、総じて小学校の教員は、現在の地域連携の状況に高い満足感を持っていることが伺えます。
- ・地域との協力関係が円滑に進んでおり、地域からの理解や協力が学校運営や教育活動に良い影響を与えていると考えられます。

【中学校】

非常に良好	・・・ 3校
ある程度良好	・・・ 6校
どちらともいえない	・・・ 0校
あまり良好ではない	・・・ 0校
全く良好ではない	・・・ 0校

- ・中学校でも、現在の連携状況を「非常に良好」または「ある程度良好」と、全ての学校が肯定的に評価しています。
- ・小学校と同様に、中学校の教員も地域連携の現状に高い満足感を持っていることが伺えます。
- ・地域との協力関係が円滑に進んでおり、学校運営や教育活動に良い影響を与えていることが伺えます。

(5) 連携状況の評価の具体的な理由 (自由記述・抜粋)

【小学校】

- 地域住民が学習活動の講師、ボランティア、学校行事への協力、校庭の剪定などの環境整備に非常に協力的で大変助かっている。地域の協力が教育活動の根幹を支えている。
- 学校と地域が地域の子どもをより良くしていこうという共通目標や活動のねらいを共有し、それに基づいた活動を仕組み化できている。
- 学校運営協議会委員や地域委員会所属の主任児童委員など、地域のキーパーソンが学校とのパイプ役となり、必要な地域人材の確保や活動の調整を円滑に進めている。

- ・「非常に良好」または「ある程度良好」と評価された背景には、地域の高い協力意識と、学校と地域が教育目標を共有できている点が挙げられます。
- ・キーパーソン間の信頼関係や円滑なコミュニケーションが、良好な連携の基盤となっていることが伺えます。

【中学校】

- 地域を知り、地域の中で学び、地域に発信することができている。学校と地域とが協働することで、学びの場の広がりや専門性を生かした学習を行うことができている。
- 中学生が地域で活躍する場を積極的に提供していただいている。
- 地域関係者が協力的である。お互いに交流を行い、ボランティア等でもお誘いを受けている。
- 郷土愛を育てるという点で有意義な活動となっている
- 学校運営協議会の委員が協力的で、願いや思いを共有し行動してくださっている
- 学校のことを気にかけて、様々な地域の情報を提供していただける
- 積極的に学校（生徒）へ関わってくださっている。反面、計画されていたことが急に中止される、活動が学校任せになっている等、気になる課題もある。

- ・中学校における良好な連携の背景にも、地域の高い協力意識と教育目標の共有が共通して挙げられます。特に、生徒の成長実感が連携活動の評価に寄与しています。
- ・地域での学びと発信を通じた専門学習の広がり、中学生の活躍の場の提供が評価されています。
- ・積極的な関与の裏で、計画中止や活動が学校任せになるといった課題も認識されています。

(6) 地域連携活動において、特に力を入れていることは何ですか (自由記述・抜粋)

【小学校】

- 地域講師によるふるさと学習の推進。総合的な学習の時間での活動。
 - 地域の方々に関わる機会を増やすこと。体験したり話したりする機会を持つこと。
 - 地域の方を講師やボランティアとして招き、地域活動に子どもが参加することでふるさと教育を推進し、地域を愛する心や地域を支えようとする姿勢を養うこと。
 - 活動のねらいや児童につけたい力を共有し、ねらいに沿った活動を仕組む。
-
- ・「ふるさと教育」を通じた児童の地域への愛着形成と、多様な学習機会の提供に重点が置かれています。
 - ・地域住民を単なる協力者ではなく、教育活動のパートナーとして位置付け、学習の質を高めていることが分かります。

【中学校】

- 地域貢献・環境美化活動として、花活動や地域クリーンアップ活動、町全体でのあいさつ・清掃ボランティアに注力している。
 - 地域連携を生徒の主体性を身に付ける活動と位置付け、ボランティアとして地域活動に自主的に参加させ、主体性の向上を図っている。
 - 地域を知り、学び、地域に発信することを通じた地域への愛着形成と、地域の一員であることの自覚の促し。
 - 学校だよりや学校運営協議会などを活用した学校の様子を共有すること。
 - 地域を元気にする取り組みとしてダンスを核とした活動。
-
- ・小学校と同様に、生徒が地域と直接触れ合い、体験する機会を重視しています。
 - ・「ふるさと教育」を重視し、地域への愛着と貢献の意識を育むことに力を入れています。
 - ・また、地域との情報共有と、ボランティアへの参画にも意識的に取り組んでいることが分かります。

(7) 学校と地域の連携が、児童生徒の学びや成長にどの程度貢献していると思いますか

【小学校】

非常に貢献している	・・・	13校
ある程度貢献している	・・・	4校
あまり貢献していない	・・・	0校
全く貢献していない	・・・	0校
わからない	・・・	0校

- ・13校が「非常に貢献している」と回答しており、残りの4校も「ある程度貢献している」と答えています。
- ・地域との連携活動が児童の教育にプラスの効果をもたらしていると認識していることが示されています。

【中学校】

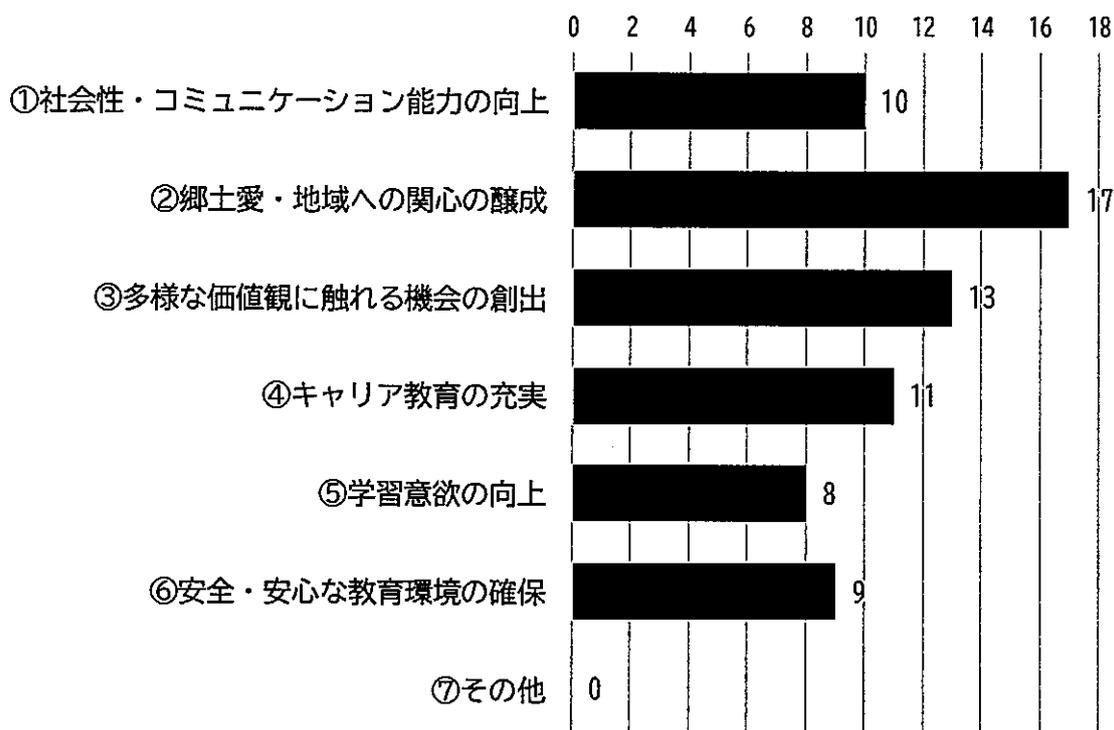
非常に貢献している	・・・	5校
ある程度貢献している	・・・	4校
あまり貢献していない	・・・	0校
全く貢献していない	・・・	0校
わからない	・・・	0校

- ・5校が「非常に貢献している」と回答し、残りの4校も「ある程度貢献している」と答えています。
- ・中学校においても、地域との連携活動が生徒の教育にプラスの効果をもたらしていることが示されています。

(8) 具体的にどのような点において貢献していると感じますか(複数回答)

【小学校】

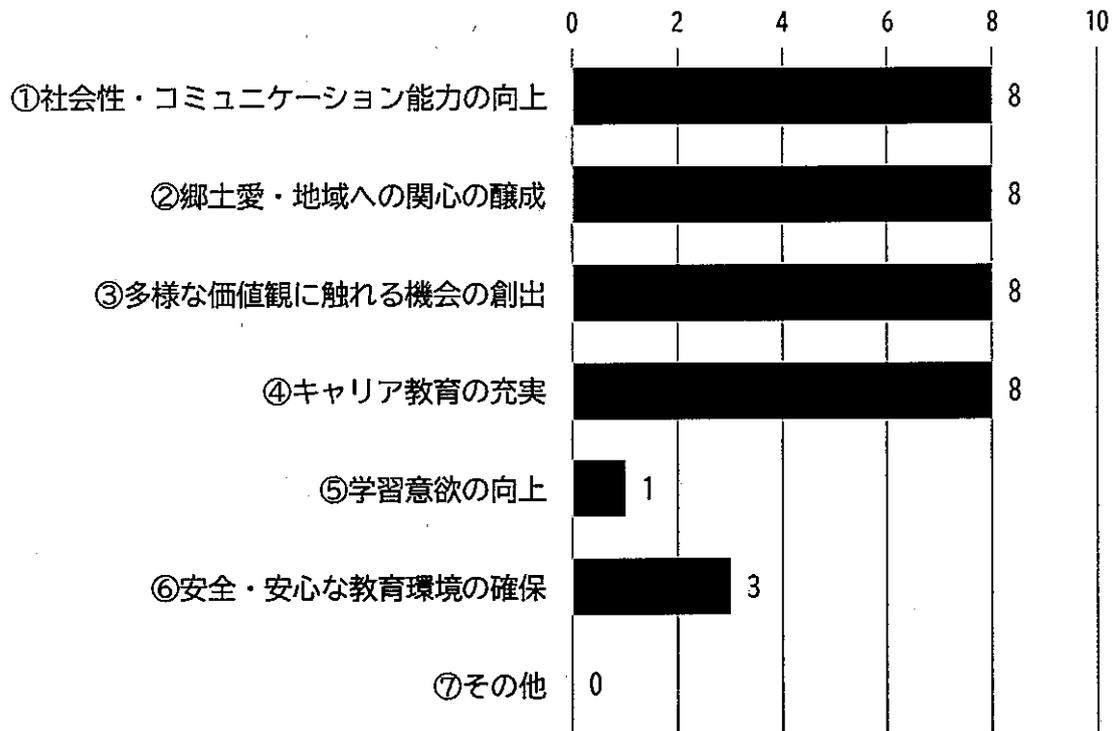
どのような分野で貢献しているか (小学校)



- ②「郷土愛・地域への関心の醸成」が全ての学校で挙げられ、高い重要性を示しています。これは、地域との交流を通じて子どもたちが自分たちの暮らす地域への理解を深め、地域の歴史や文化に触れることで、愛着を育むという教育的目標の実現に向けて、大きな成果を上げていると考えられます。
- ③「多様な価値観に触れる機会の創出」(13校)、④「キャリア教育の充実」(11校)、①「社会性・コミュニケーション能力の向上」(10校)も高く評価されており、地域連携が学校だけでは提供しきれない多角的な学びの機会を提供し、児童の人間性や社会性の発達に寄与していることが伺えます。
- ⑥「安全・安心な教育環境の確保」(9校)や⑤「学習意欲の向上」(8校)も半数近くの学校で挙げられており、地域による見守り活動や学習支援が教育環境の質向上にも繋がっていると認識されています。

【中学校】

どのような分野で貢献しているか（中学校）

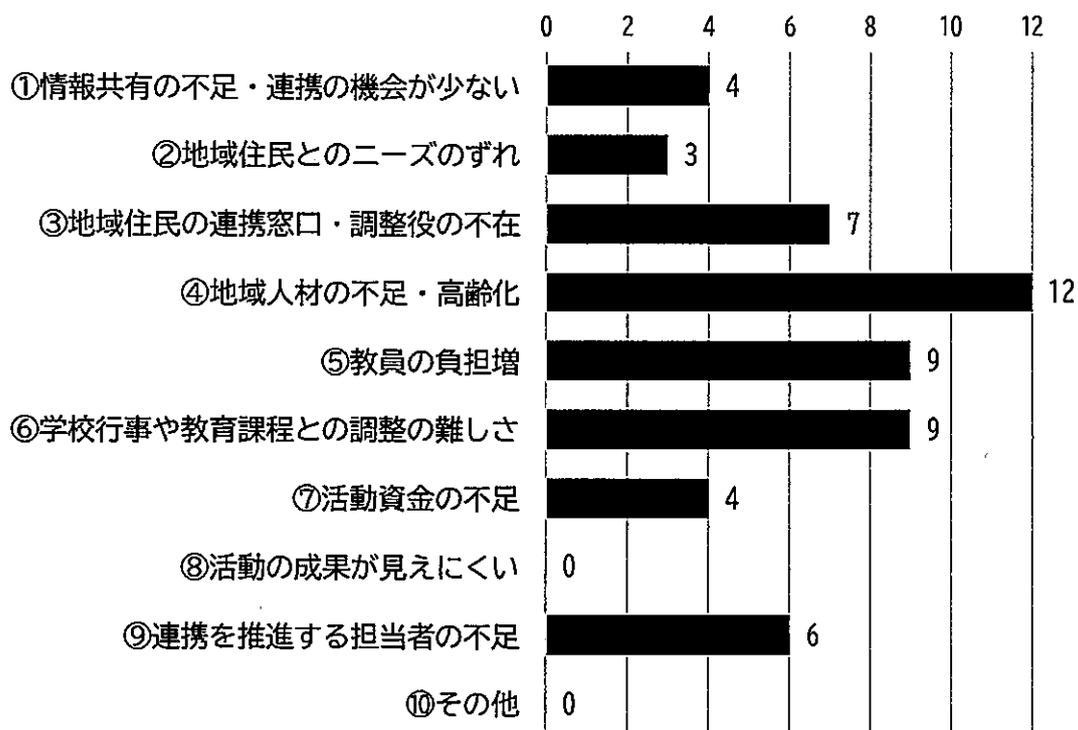


- ①「社会性・コミュニケーション能力の向上」、②「郷土愛・地域への関心の醸成」、③「多様な価値観に触れる機会の創出」、④「キャリア教育の充実」が、それぞれ8校と最も多く挙げられています。これは、中学生という発達段階において、地域との触れ合いを通じて実践的な能力や地域への帰属意識を育むことが、連携活動の大きな目的となっていることを示しています。特にキャリア教育は、職業体験などを通じて地域との連携が不可欠であり、その貢献度が高く評価されています。
- ⑥「安全・安心な教育環境の確保」（3校）も一定数挙げられていますが、小学校に比べると割合は低くなっています。これは、中学生になると行動範囲が広がり、見守りの対象も変化するため、連携の重点が教育活動そのものに移っている可能性が考えられます。

(9) 学校と地域の連携を進める上で、現在どのような課題や困難を感じていますか（複数回答）

【小学校】

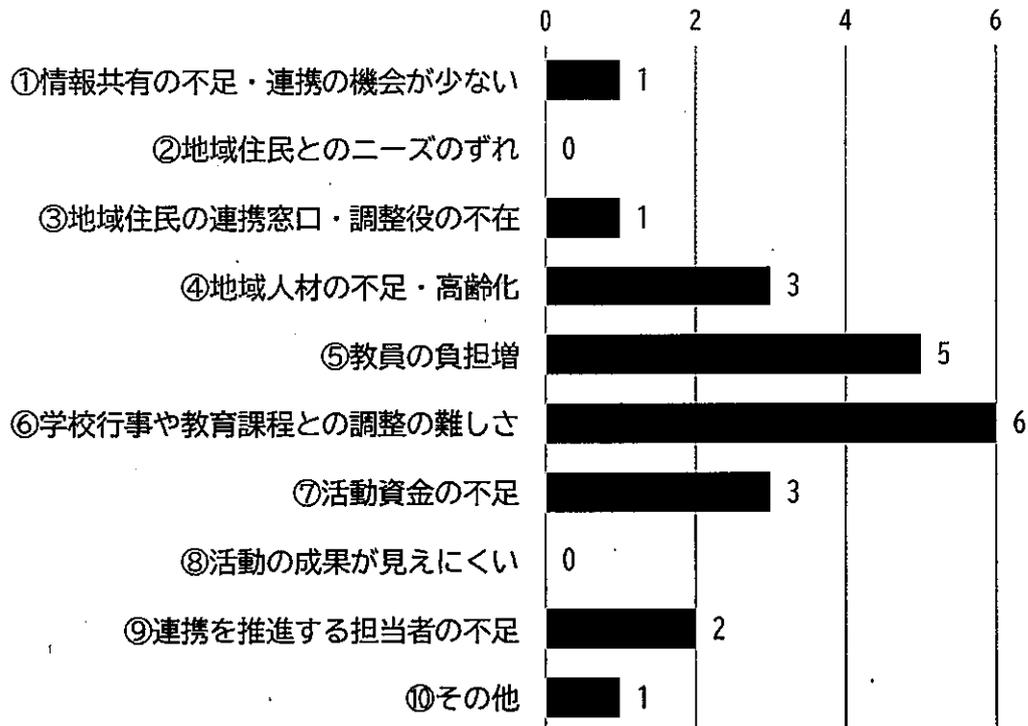
現在感じている課題や困難（小学校）



- ④「地域人材の不足・高齢化」が12校と最も多く挙げられています。これは、地域活動を支える人材が減少傾向にあり、高齢化が進んでいる現状が学校側の連携活動にも大きな影響を与えていることを示しています。
- ⑤「教員の負担増」と⑥「学校行事や教育課程との調整の難しさ」がともに9校で次点に続き、学校側の人手不足や業務量の多さが、新たな連携活動の推進や既存活動の継続を阻む要因となることが分かります。教員が通常業務に加えて連携活動の企画・実施に時間を割くことの難しさが伺えます。
- ③「地域住民の連携窓口・調整役の不在」（7校）や⑨「連携を推進する担当者の不足」（6校）も挙げられており、学校と地域をつなぎ、円滑な連携を進めるための担当者の不在が、連携のボトルネックとなっている可能性があります。

【中学校】

現在感じている課題や困難（中学校）

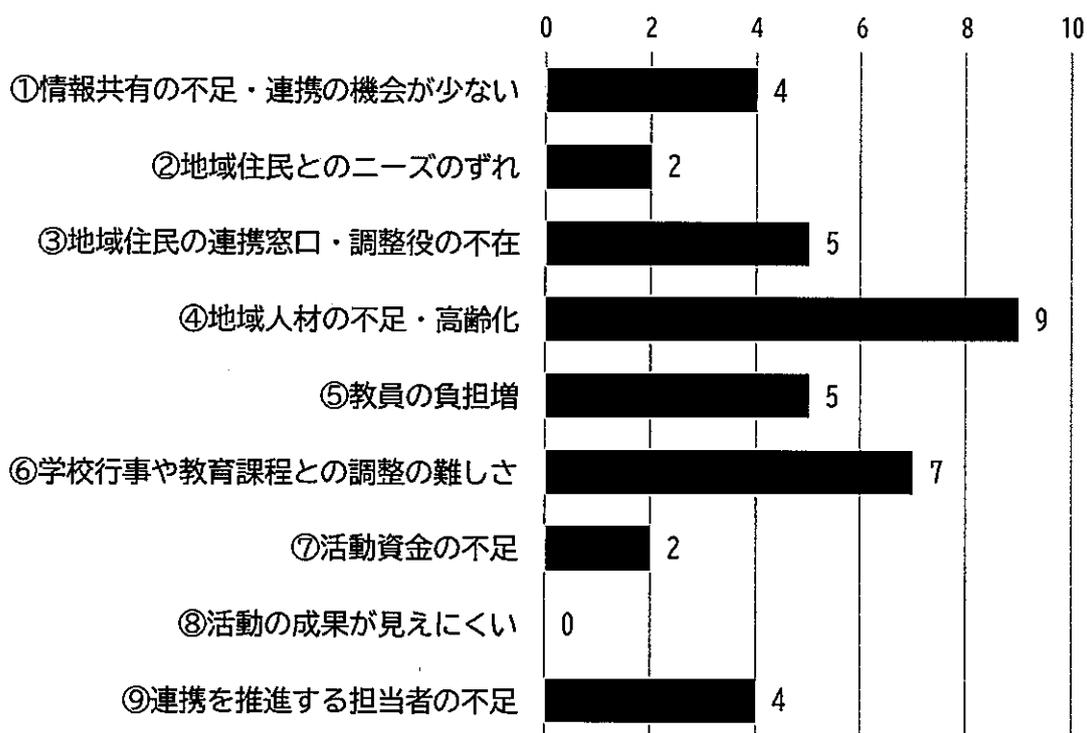


- ⑥「学校行事や教育課程との調整の難しさ」が6校で最も多く挙げられています。中学校は義務教育期間の最終段階であり、高校入試や部活動、生徒指導など多忙な学校生活の中で、地域連携活動を効果的に組み込むことの難しさがうかがえます。
- 次いで⑤「教員の負担増」（5校）、④「地域人材の不足・高齢化」（3校）、⑦「活動資金の不足」（3校）も課題として挙げられており、小学校と同様に人的・財政的なリソースの不足が障壁となっていることが分かります。
- 中学校の教員が、時間的制約の中で新たな連携活動を企画したり、既存活動の調整を行ったりすることの難しさが浮き彫りになっています。

(10) 課題や困難の中で、特に深刻だと感じるものを3つまでお答えください

【小学校】

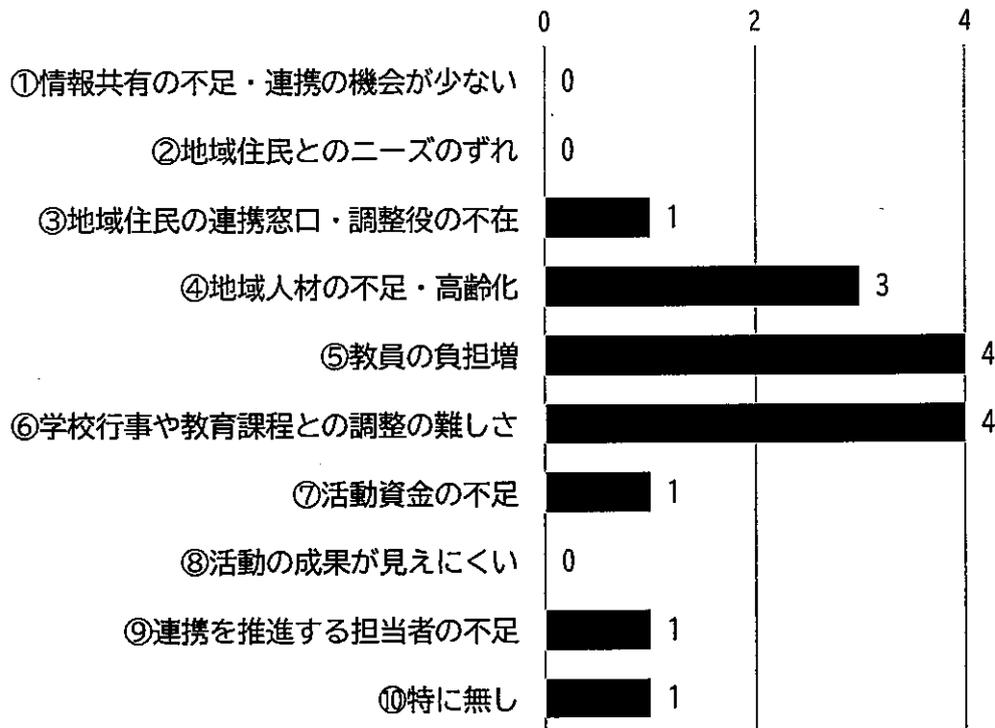
課題や困難のうち特に深刻なもの上位3項目（小学校）



- ④「地域人材の不足・高齢化」が9校で最も深刻な課題とされました。これは、地域で学校を支える人的資源の確保が、連携活動の持続性において最も喫緊の課題であることを示唆しています。
- ⑥「学校行事や教育課程との調整の難しさ」（7校）、③「地域住民の連携窓口・調整役の不在」（5校）、⑤「教員の負担増」（5校）が続き、学校側の業務調整の困難さや、学校と地域をつなぐサポート体制の欠如が、連携活動の進展を阻む要因の一つであると考えられます。

【中学校】

課題や困難のうち特に深刻なもの上位3項目（中学校）



- ④「教員の負担増」と⑥「学校行事や教育課程との調整の難しさ」がそれぞれ4校で最も深刻な課題とされました。これは、中学校の教員が日々の業務や生徒指導に忙殺される中で、地域連携活動に割ける時間やエネルギーが限られている実情を反映しています。
- また、④「地域人材の不足・高齢化」（3校）も深刻な課題として挙げられており、地域側の人的リソースの確保が連携活動の持続性において重要であることが示されています。

(11) 学校と地域の連携をさらに推進するために、どのような支援や改善が必要だと思いますか（自由記述・抜粋）

【小学校】

- 教員の引率負担や教育課程との調整を考慮し、無理なく持続できる連携のあり方を模索し、学校と地域が共通理解を持つことが重要である。子どもが教員引率なしで参加できる地域活動の工夫も必要ではないか。
 - 運営協議会等の委員の意識改革や、市による研修を通じ、地域学校協働活動で大切にすべきつながりを深めることへの理解促進が大切である。
 - 学校と地域を繋ぎ、円滑な連携を促進するための担当者や、地域に詳しい橋渡し役の位置付けと人材の発掘が必要である。また、このような役割の方が学校に入り込める環境整備により、活動の継続可能性や教員負担の軽減となるのではないか。
 - 連携活動の活発化には、活動への補助金や講師謝金・交通費に充てる活動資金の確保が不可欠である。学校補助金の減額により、費用が生じる講師依頼を断念するケースもある。
- ・学校運営協議会委員や地域委員会メンバーが、これまで以上に学校と地域間の調整役としての役割を意識的に担うことや、学校側の教員が地域との窓口を明確化し、連携業務を組織的に共有するなどの工夫が必要となるでしょう。
 - ・また、「活動への補助金」という財政的支援への要望も多く、活動の活性化には資金面のバックアップが求められています。

【中学校】

- 行政による資金援助や地域人材の提供が必要。特に活動資金として「バスの借り上げ」費用が課題となっている。
 - 学校内で地域連携に関するノウハウの引継ぎを確実にを行う体制が必要である。
 - 学校と地域双方が事業や行事を精選し、無理なく持続可能な連携を目指すべき。
 - 地域が学校の教育目的や課程を理解し、共同歩調を取ることが重要ではないか。過度な要求は教員の負担増、調整の難しさにつながるため、相互の理解と配慮が不可欠である。
 - 無理なく持続できる連携の在り方を探り、学校と地域が共通理解した上で進めていくことが重要である。
- ・「ノウハウの蓄積・継承」、「学校と地域の共通理解」、「無理なく持続できる連携」が必要とされています。
 - ・「資金援助や地域人材提供」といった具体的な支援への期待も大きく、財政的・人的リソースの補強が連携推進の鍵となります。

(12) 地域委員会のメンバーが学校運営協議会委員として入っていますか

【小学校】

入っている	・・・15校
入っていない	・・・2校

- ・15校で「入っている」と回答しており、学校運営において地域の代表者の意見が反映される体制が広く確立されていることを示しています。
- ・地域の代表者が学校運営に参画することで、地域のニーズや資源が学校教育に反映されやすくなり、より地域に根差した学校づくりが進んでいると考えられます。

【中学校】

入っている	・・・8校
入っていない	・・・1校

- ・8校で「入っている」と回答しており、小学校と同様に学校運営に地域の代表者が関与する体制が確立されています。
- ・地域社会のニーズを学校運営に反映させ、より地域に根差した教育活動を展開することが可能となっています。

(13) 社会教育委員が学校運営協議会委員として入っていますか

【小学校】

入っている	・・・	4校
入っていない	・・・	13校

- ・「入っていない」と回答した学校が13校となりました。
- ・社会教育委員は地域の教育活動全体を推進する役割を担い、その専門性は学校教育にも活かせる可能性があります。現状ではその参画が十分ではないことが分かります。
- ・地域と学校の連携をより多角的な視点から強化するためには、社会教育委員の学校運営への参画を促すことも検討の余地があります。

【中学校】

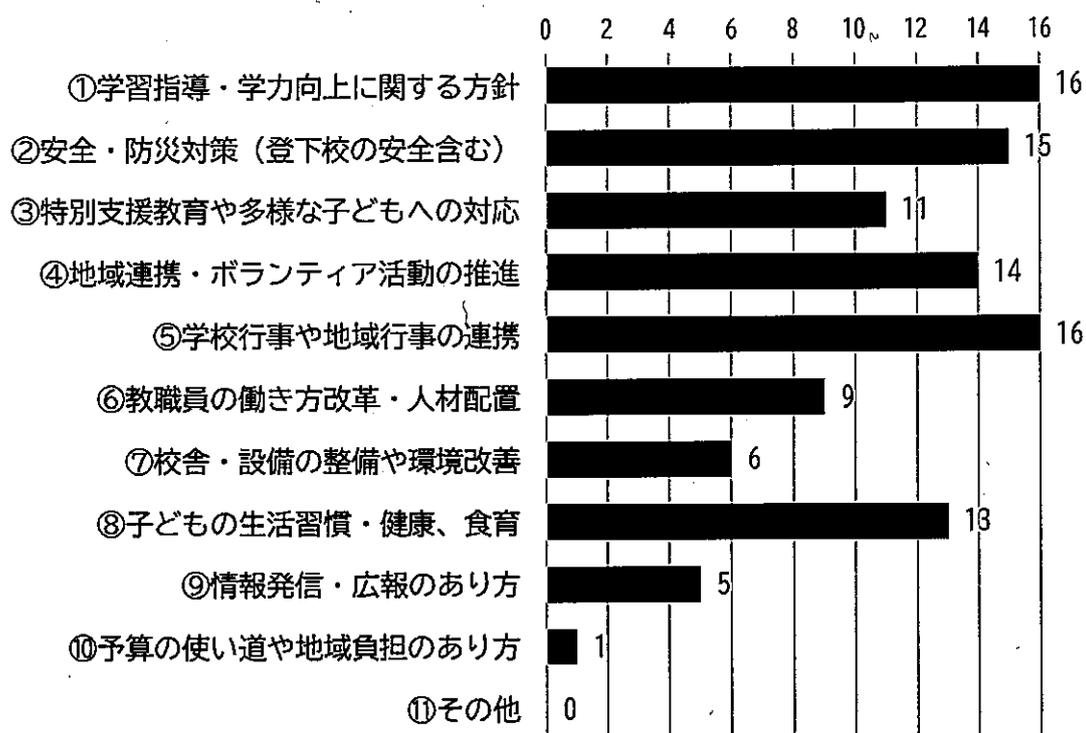
入っている	・・・	2校
入っていない	・・・	7校

- ・「入っていない」と回答した学校が7校となりました。
- ・小学校と同様、社会教育委員の参画が十分ではない状況が見受けられます。
- ・中学校においても、より幅広い視点から地域と学校の連携を深めるためには、社会教育委員の専門性を活かす方法を検討することが望まれます。

(14) 学校運営協議会において議題にしている事項は何ですか(複数回答)

【小学校】

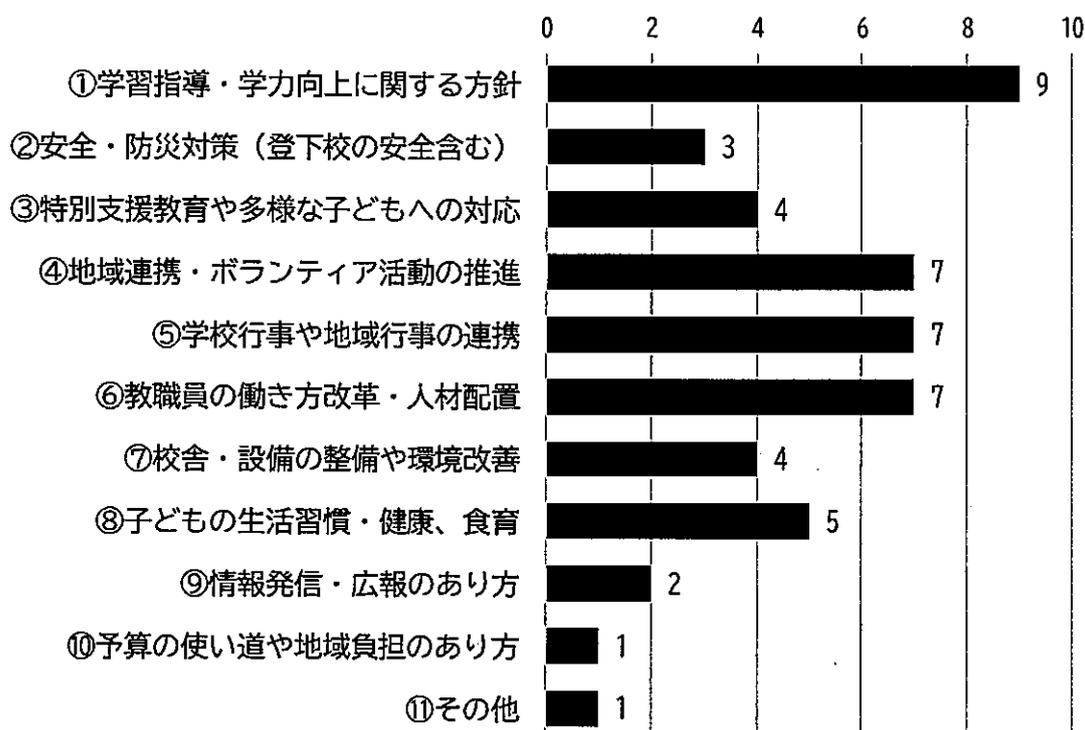
学校運営協議会での議題（小学校）



- ・①「学習指導・学力向上に関する方針」と⑤「学校行事や地域行事との連携」がそれぞれ16校と最も多く挙げられています。これは、学校運営協議会が児童生徒の学力向上と、地域との協働による学校行事の充実という、学校教育の根幹に関わる事柄に関心を寄せていることが伺えます。
- ・また、②「安全・防災対策」（15校）や④「地域連携・ボランティア活動の推進」（14校）、⑧「子どもの生活習慣・健康、食育」（13校）も非常に高い割合で議題となっており、地域が一体となって子どもたちの安全で健やかな成長を支えるという意識が働いていると思われます。
- ・⑥「教職員の働き方改革・人材配置」（9校）も半数以上の学校で議題となっており、教員の負担軽減に向けた地域からの協力体制についても議論されているようです。
- ・多様な議題が扱われていることから、学校運営協議会が学校と地域の多様な課題解決の場として機能していると考えられます。

【中学校】

学校運営協議会での議題（中学校）



- ①「学習指導・学力向上に関する方針」が全ての学校で挙げられています。これは、中学校運営協議会が学力向上という学校の中心的課題に対して、地域としてどう協力・支援していくかを重視していることを示します。
- また、④「地域連携・ボランティア活動の推進」、⑤「学校行事や地域行事との連携」、⑥「教職員の働き方改革・人材配置」がそれぞれ7校と非常に高く、これらが主要なテーマとなっていることが分かります。特に⑥「教職員の働き方改革・人材配置」が議題に上がる点は、教員の負担増という課題意識が運営協議会にも共有されていることを表しています。
- ⑪「その他」の自由記述では、「いじめ・不登校対策」といった、生徒の心の問題に関する議題が挙げられました。中学校段階で顕在化しやすい課題であり、地域全体で生徒を支える必要性が議論されているようです。

(15) 今後、地域との連携活動をさらに増やしていきたいですか

【小学校】

増やしたい	・・・	7校
減らしたい	・・・	0校
現状維持	・・・	10校

- ・10校が「現状維持」と回答し、「増やしたい」と答えたのは7校でした。
- ・これは、現在の連携活動が既に活発であり、教員の業務負担や地域人材の制約を考慮すると、これ以上の拡大は困難であると感じている学校が多いことを示しています。
- ・既存の連携を維持しつつ、その質を高めることに重点を置きたいという意向が読み取れます。

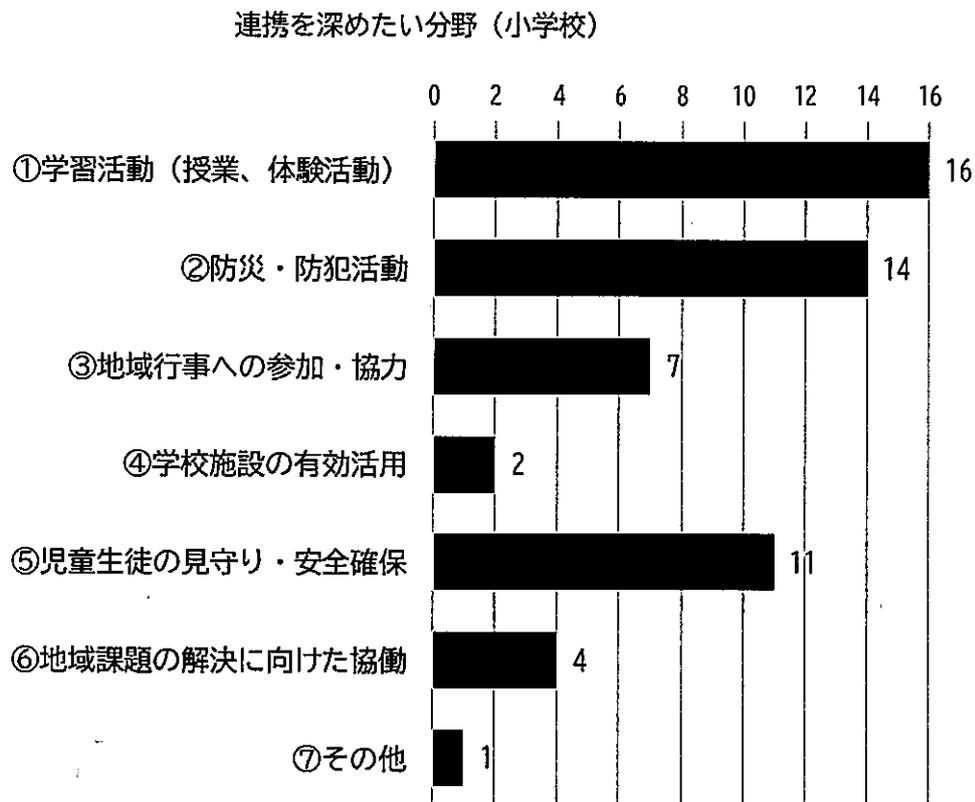
【中学校】

増やしたい	・・・	2校
減らしたい	・・・	0校
現状維持	・・・	7校

- ・7校が「現状維持」と回答し、「増やしたい」と答えたのは2校でした。
- ・小学校よりも「現状維持」の割合が高く、中学校の教員は、現在の多忙な状況や限られたリソースの中で、これ以上の連携活動の拡大は難しいと感じている実情が示されています。
- ・既存の活動を継続し、その質を確保することに重点を置きたいという意向が読み取れます。

(16) どのような分野で地域との連携を深めたいですか（複数回答）

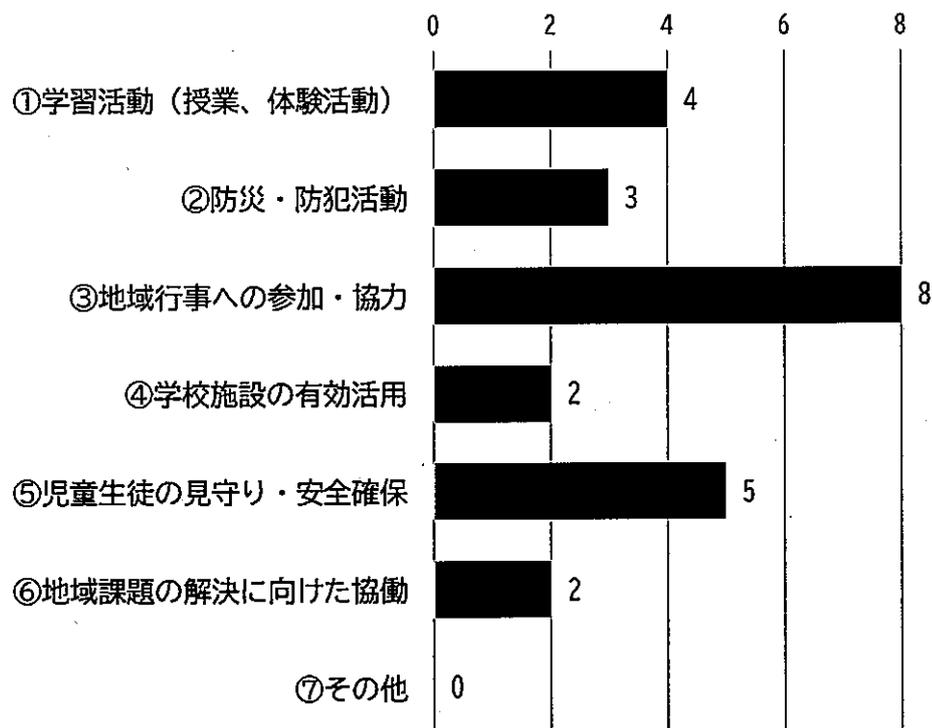
【小学校】



- ①「学習活動（授業、体験活動）」が16校と多くの回答数を集めました。これは、学校側が地域の人的・物的資源を、子どもたちのより実践的で多様な学びの機会に直接活かしたいという意向を持っていることを示しています。
- 次いで②「防災・防犯活動」（14校）や⑤「児童生徒の見守り・安全確保」（11校）も高く、子どもたちの安全・安心な生活環境の確保が、地域連携における重要なテーマであると認識されています。
- ③「地域行事への参加・協力」（7校）も多く、地域の一員としての参加を通じて子どもたちの社会性を育みたいという期待も大きいようです。

【中学校】

連携を深めたい分野（中学校）



- ③「地域行事への参加・協力」が8校と最も多く挙げられました。これは、中学校側が地域のイベントへの生徒の参画を通じて、地域の一員としての意識や社会性を育むことに期待を寄せていることを示しています。
- 次いで⑤「児童生徒の見守り・安全確保」（5校）も高く、生徒の安全な生活環境の確保が、連携の重要なテーマであると認識されています。
- 小学校で最も高かった①「学習活動（授業、体験活動）」（4校）は、中学校でも重要視されているものの、地域行事への参加が優先されている点が特徴的です。

(17) 学校と地域の連携についての意見や提案（自由記述）

【小学校】

- 地域学校協働活動に対する学校管理職の認識が様々であるように感じる。それらをつなぐ働きかけを市で進めてもらえるともっと取り組みやすくなると思う。
- ・管理職間での連携推進に対する共通認識と具体的な方針の統一が求められます。市が意識統一を促す働きかけで連携が円滑化し、組織的強化に繋がると期待されます。

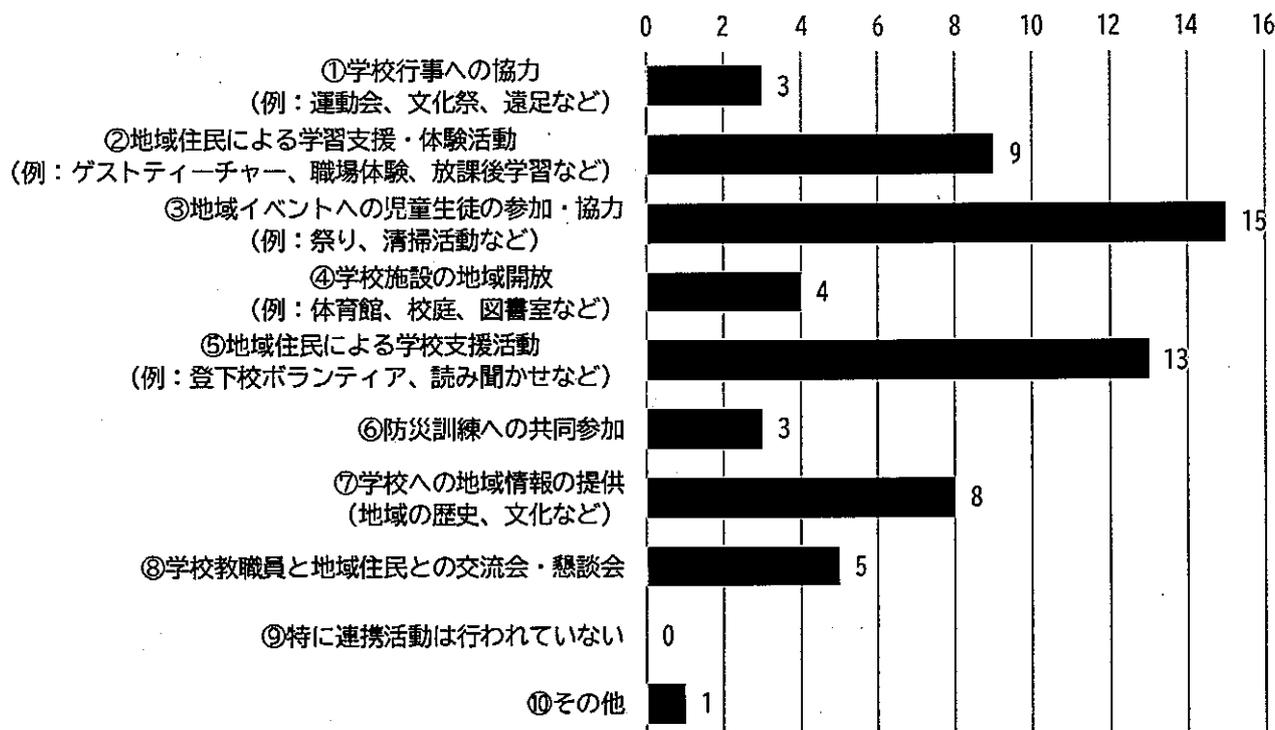
【中学校】

- 持続可能な教育活動や学校運営につながるように学校と地域の連携を推進していきたい。
- ・連携活動の持続可能性が重要課題であり、教員の負担増を招かないような無理のない連携が求められています。

3 地域委員会調査結果

(1) 現在、学校との間で、どのような連携活動が行われていますか（複数回答）

現在実施されている地域連携活動（地域委員会）



- ・③「地域イベントへの児童生徒の参加・協力」が全ての地域で実施されています。これは、地域委員会が学校との連携において、子どもたちが地域の行事や活動に直接参加することを重視している表れと考えられます。
- ・⑤「地域住民による学校支援活動」（13地域）も高割合で実施されており、学校の環境維持や安全確保に貢献しています。
- ・また、②「地域住民による学習支援・体験活動」（9地域）も多く、地域の歴史や産業に関するゲストティーチャー、伝統文化の継承活動などが活発に行われていることが伺えます。
- ・⑦「学校への地域情報の提供」（8地域）も半数以上の地域が行っており、地域の情報が学校教育に活かされていることが分かります。
- ・一方で、①「学校行事への協力」（3地域）や⑥「防災訓練への共同参加」（3地域）は比較的实施割合が低く、これらの分野での連携強化の余地があると考えられます。

(2) 学校との連携について、特徴的な取り組み (自由記述・抜粋)

- 地域行事への積極的な参画: 元気防災フェスタでのボランティア活動、秋祭りでの発表や手伝い、地域運動会や文化祭への参加・作品出展など、小・中学生が地域行事の重要な担い手として活躍している。
 - 地域資源を活用した学習支援・体験活動: 災害時におけるトイレ知識講座、ポッチャクラブの発足と指導、小学校家庭科でのミシン学習補助、防災勉強会への保護者との合同参加が実施されている。また、ご当地カルタ、竹細工、芋収穫を通じた世代間交流イベント、本城山登山、アユ放流、綿の栽培とものづくり、木育講座といった地域独自の学びの機会が提供されている。
 - 地域貢献と環境美化活動: 安桜トンネルや小学校グラウンド・周辺の清掃活動、通学路や里山登山道の整備など、地域の維持・美化への貢献が行われている。
 - 生徒主体による活動と交流の促進: 中学生が企画するイルミネーション点灯式や、生徒が企画・運営する夏祭り出店といった活動を通じ、生徒の主体的な取り組みが地域によって応援されている。「武芸川きずな会議」では、小・中学生の代表が地域の課題や夢について地域住民と直接意見を交換し、多世代間の対話の場を創出している。中学校茶道部による秋まつりでの呈茶や、コーラスラインでの小学校との交流も活発に行われている。
 - 安全確保と文化の継承・発信: 里山登山時の生徒見守り隊の同行や、防災活動への協力がなされている。生徒の作品展示や円空芋の振る舞いを通じた地域文化の発信も行われている。
-
- ・地域イベントへの学校・児童生徒の積極的な巻き込みと、地域資源(歴史、自然、文化、人材)を活かした体験学習の提供に力を入れています。
 - ・防災教育や清掃活動など、地域課題への共同での取り組みも多く、子どもたちが地域社会の一員として貢献する機会を重視していることが分かります。
 - ・生徒が企画するイベントへの協力など、生徒の主体性を尊重する姿勢も見られます。

(3) 現在の学校と地域の連携状況について、どのように評価されていますか

非常に良好	・・・ 5校
ある程度良好	・・・ 8校
どちらともいえない	・・・ 0校
あまり良好ではない	・・・ 2校
全く良好ではない	・・・ 0校

- 「ある程度良好」(8地域)が最も多く、「非常に良好」(5地域)を合わせると13地域が肯定的な評価です。
- しかし、2地域が「あまり良好ではない」と回答している点には注意が必要です。これは、一部の地域委員会において、学校との連携に何らかの課題を感じており、必ずしも全ての連携が円滑に進んでいるわけではない実情を示しています。

(4) 連携状況の評価の具体的な理由 (自由記述・抜粋)

- 校長や先生方、生徒会と定期的に話し合いの時間をもち、地域の問題点解決に努めている。
- 学校側からの積極的な協力依頼やイベント参加、ボランティア募集があり、良好なコミュニケーションが取れている。
- PTA会長・副会長が地域協議会委員であるなど、既存の人材活用により連携が円滑である。
- 中学生ボランティアの募集や小学校訪問を通じた教員との交流で、相互に相談しやすい関係性が築かれている。
- 小・中学校ともに地域の行事を理解し、積極的に参画を推進している。
- 地域住民の協力を得て、学校運営や児童生徒の活動が支えられている。
- 学校にどこまで踏み込んでいいか距離感が難しい。
- コロナ禍以降、学校とは距離感がある。お互いの情報共有不足。

- 「非常に良好」と評価する背景には、学校との定期的な対話や情報共有、学校側の積極的な協力姿勢が大きく影響しています。
- 一方で、「コロナ後の距離感」や「情報共有不足」といった具体的な理由から「あまり良好ではない」と評価する地域もあり、日常的なコミュニケーションの機会減少が連携に影響を与えていることが分かります。

(5) 学校からの情報共有は十分だと感じていますか

十分に感じる	・・・	1 地域
ある程度感じる	・・・	11 地域
どちらともいえない	・・・	1 地域
あまり感じない	・・・	2 地域
全く感じない	・・・	0 地域

- 学校からの情報共有については、11の地域委員会が「ある程度感じる」と回答し、1地域が「十分に感じる」と回答しています。しかし、2地域が「あまり感じない」と回答している点に課題が見られます。
- これは、学校と地域の情報共有が必ずしも十分ではないケースが存在し、連携活動の質に影響を与えている可能性があることを示しています。

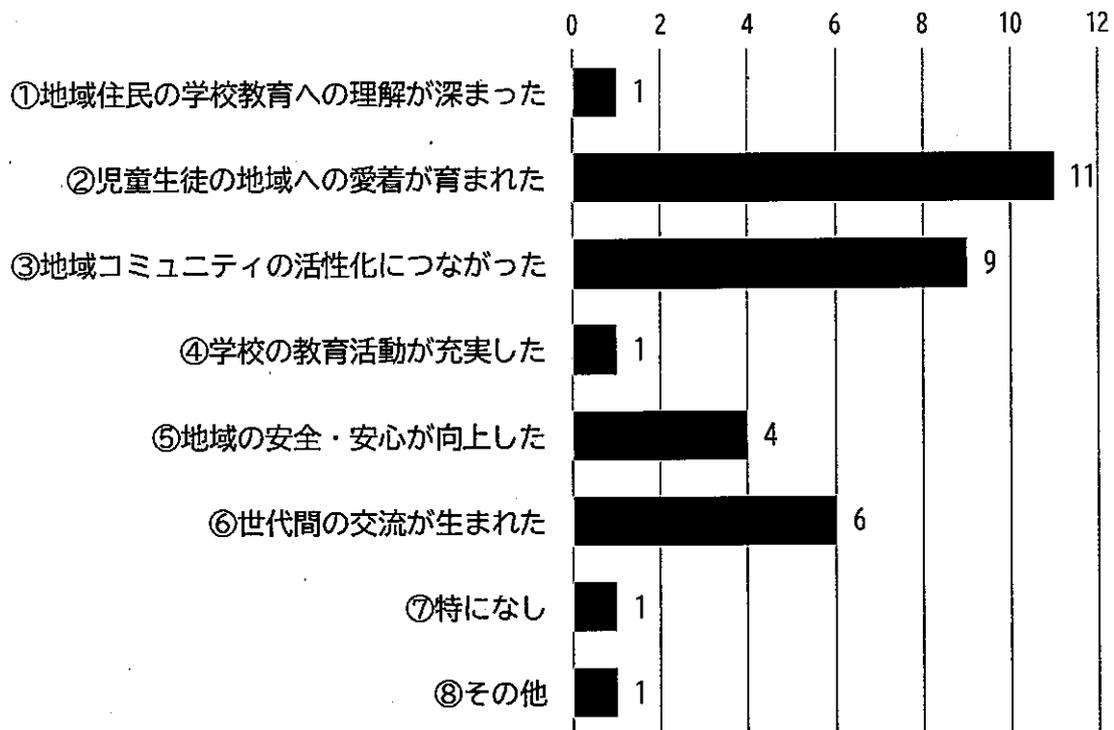
(6) 地域委員会から学校への情報共有は十分に行えていますか

十分に感じる	・・・	2 地域
ある程度感じる	・・・	9 地域
どちらともいえない	・・・	2 地域
あまり感じない	・・・	2 地域
全く感じない	・・・	0 地域

- 9地域が「ある程度感じる」と回答しており、2地域が「十分に感じる」と答えています。しかし、2地域は「あまり感じない」と回答しており、学校への情報発信に課題を感じている地域委員会も存在することが分かります。
- 学校との双方向の円滑な情報共有体制を確立するためには、地域委員会側からの情報提供のあり方も見直す必要があるかもしれません。

(7) 地域と学校の連携において、特に成果やメリットを感じていることは何ですか（複数回答）

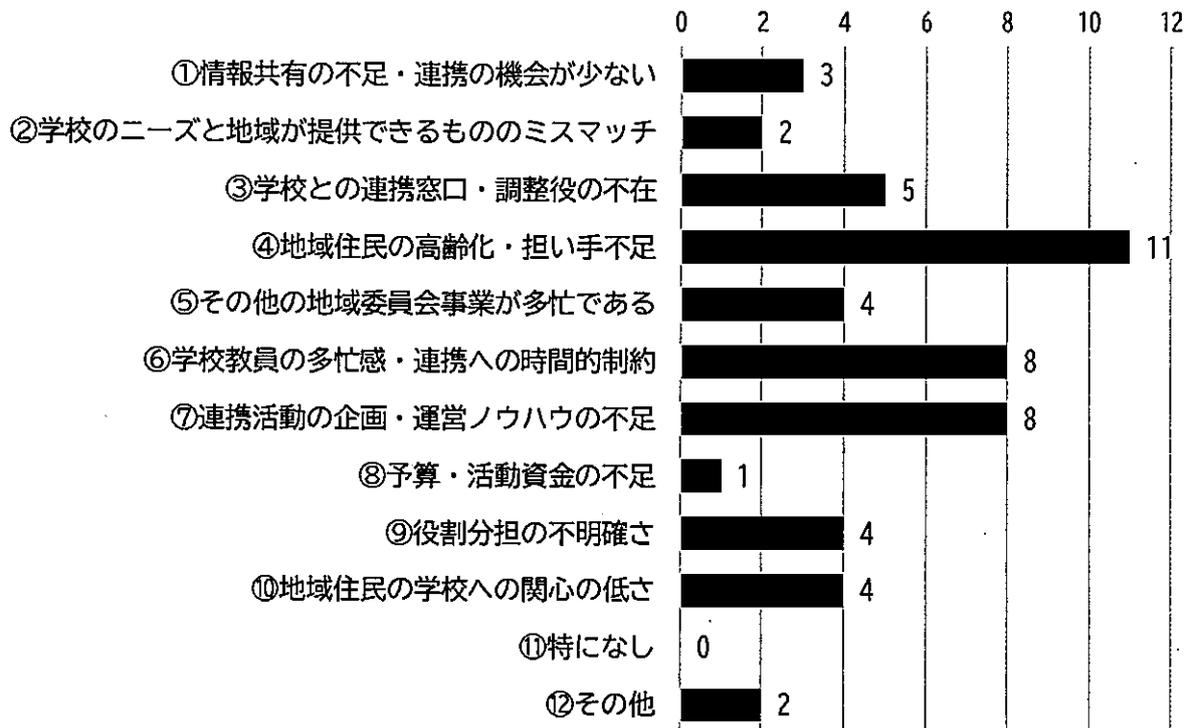
連携における成果やメリット（地域委員会）



- ②「児童生徒の地域への愛着が育まれた」が11地域で最も多く挙げられています。これは、学校と地域が協力し合うことで、子どもたちが自身の住む地域への理解と愛着を深めるという教育的効果を、地域委員会側も実感していることを示しています。
- 次いで③「地域コミュニティの活性化につながった」（9地域）、⑥「世代間の交流が生まれた」（6地域）も高く、学校との連携が子どもたちだけでなく、地域全体の連帯感や活気向上にも寄与していると認識されています。
- ⑤「地域の安全・安心が向上した」（4地域）というメリットも挙げられており、地域全体で子どもを見守る意識の高まりも見取れます。

(8) 地域と学校の連携において、現在どのような課題や困難を感じていますか（複数回答）

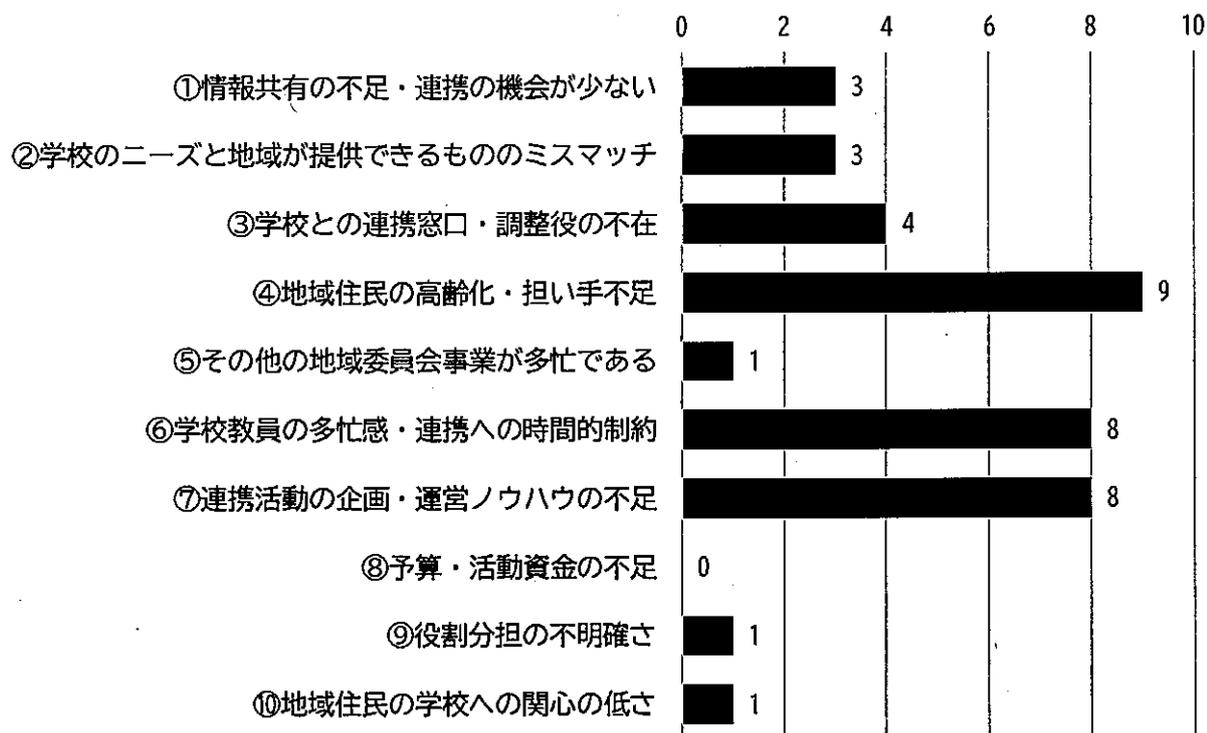
現在感じている課題や困難（地域委員会）



- ・④「地域住民の高齢化・担い手不足」11地域で最も多く挙げられました。活動を支える人材の確保が困難になっているという、地域が抱える根本的な問題が学校連携にも影響を与えていることが伺えます。
- ・また、⑥「学校教員の多忙感・連携への時間的制約」と⑦「連携活動の企画・運営ノウハウの不足」がそれぞれ8地域で次に続き、学校側の時間的制約や、効果的な連携活動を企画・実行するための経験・知識の不足が大きな障壁となっていることが分かります。学校と地域、双方の人材・時間不足が連携の深化を阻害する共通の要因として浮上しています。
- ・②「学校のニーズと地域が提供できるもののミスマッチ」⑩「地域住民の学校への関心の低さ」といった項目も挙げられました。これは、学校と地域間の認識の違いや、期待値のズレが課題として認識されていることを示しています。
- ・「その他」の自由記述では、若い世代は仕事で忙しく、子どもの卒業とともに無関心になるといった課題や、小学校統合による地域からの学校喪失への懸念が挙げられました。

(9) 課題や困難の中で、特に重要だと感じるものを3つまでお答えください

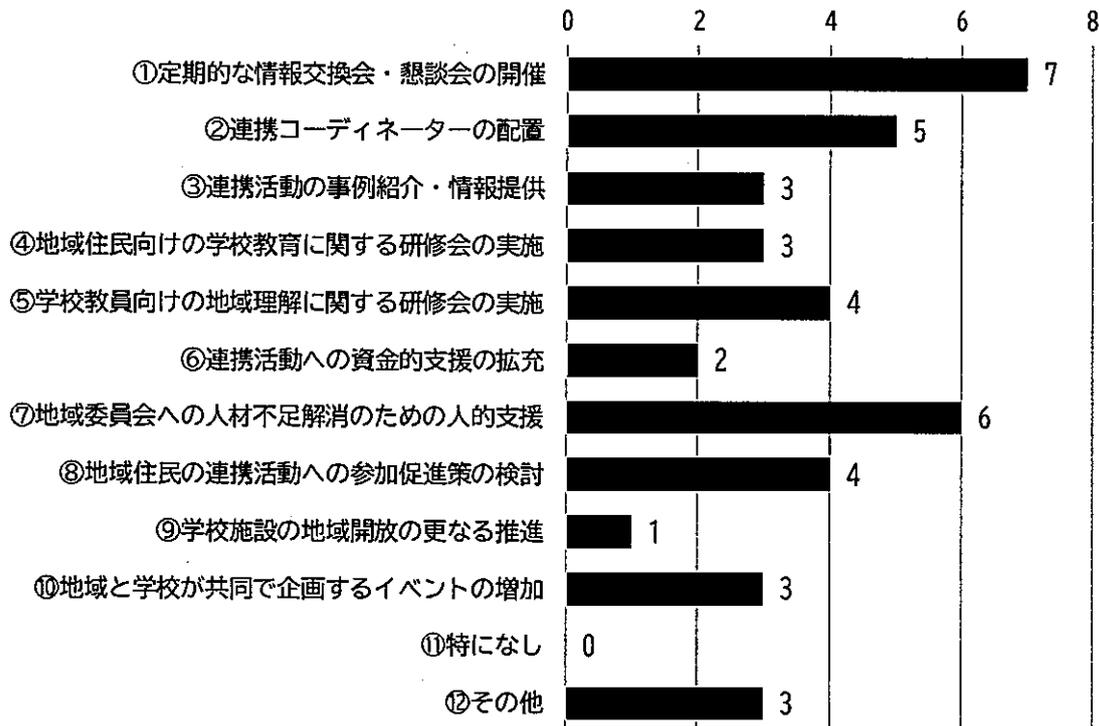
課題や困難のうち特に重要なもの上位3項目（地域委員会）



- ・特に重要な課題の上位3項目としても、④「地域住民の高齢化・担い手不足」が9地域で最も多く、地域側にとっての根本的な問題が改めて浮き彫りになりました。
- ・次いで⑥「学校教員の多忙感・連携への時間的制約」と⑦「連携活動の企画・運営ノウハウの不足」がそれぞれ8地域で同率となり、学校側のリソース不足と、地域側の活動企画能力の向上が、連携深化のための重要な鍵であることが示されています。

(10) 地域と学校の連携をさらに強化するために、どのようなことが必要だと考えますか

連携を強化するために必要なこと（地域委員会）



- ①「定期的な情報交換会・懇談会の開催」が7地域で最も多く挙げられました。これは、学校と地域間での意思疎通の機会が重要視されており、顔の見える関係性や相互理解を深めることが円滑な連携の基盤となることを示しています。
- 次いで⑦「地域委員会への人材不足解消のための人的支援」（6地域）、②「連携コーディネーターの配置」（5地域）が続き、地域側の負担軽減や、効果的な活動実施に向けたサポートへの期待が大きいことが分かります。
- また、⑤「学校教員向けの地域理解に関する研修会の実施」（4地域）や⑧「地域住民の連携活動への参加促進策の検討」（4地域）も挙げられており、相互理解の促進や地域住民の参画意欲向上への取り組みが求められています。

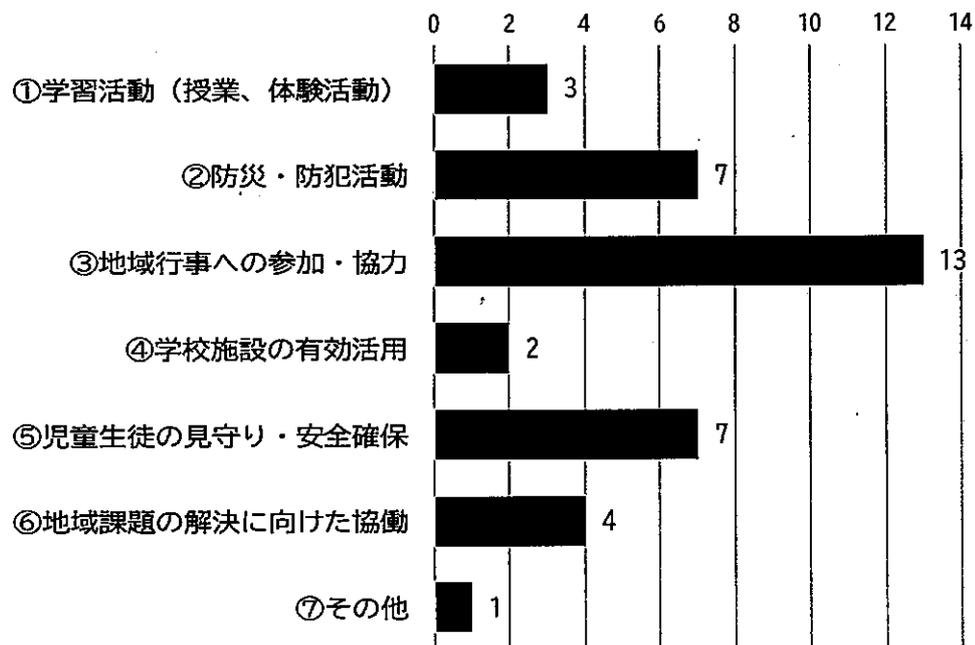
(11) 今後、学校との連携活動をさらに増やしていきたいですか

増やしたい	・・・ 6 地域
減らしたい	・・・ 1 地域
現状維持	・・・ 8 地域

- ・ 8地域が「現状維持」と回答しました。「増やしたい」は6地域でしたが、1地域は「減らしたい」という意向も示しています。
- ・ これは、地域委員会側も現在の活動量で手一杯であることや、地域人材の不足などの課題から、これ以上の連携拡大が難しいと感じている実情を反映しています。
- ・ 一部には負担軽減の必要性を感じている団体も存在し、連携の量だけでなく、持続可能な質を重視する視点も求められます。

(12) どのような分野で学校との連携を深めたいですか（複数回答）

今後連携を深めたい分野（地域委員会）



- ・ ③「地域行事への参加・協力」が13地域と最も多く挙げられました。地域の祭りや清掃活動への参加を通じて、子どもたちが地域に貢献し、地域とのつながりを深める機会が求められています。
- ・ 次いで②「防災・防犯活動」（7地域）や⑤「児童生徒の見守り・安全確保」（7地域）も高く、子どもたちの安全・安心な生活環境の確保が、地域連携における重要なテーマであると認識されています。
- ・ 小学校や中学校が「学習活動」を重視するのに対し、地域委員会は「地域行事への参加」や「安全」といった、より地域社会との直接的な関わりを望む傾向が見られます。

(13) 学校と地域の連携についての意見や提案 (自由記述・抜粋)

- 現在中学生と定期的な会議を実施しているが、なんでも話せる雰囲気作り、場面づくりが重要。
- PTA 活動の停滞化で住民との連携が薄くなり、子どもとの接触が無くなってきていることが課題となってきたのではないかと。
- 毎年、小中の年間予定を年度初めに聞きたい。毎年、年間予定を交換し合うことが当たり前になると嬉しい。
- 校長先生によって地域との連携に関して意識の差があるように感じる。考え方に差があっては連携が取りにくくなるので、統一されているとやりやすい。
- もっといろいろ出来ることがあれば、協力したい。
- 教員の働き方改革(時間的規制)があり、地域活動への参加が叶わなくなりつつある。地域活動への参加は、学校教員自身の勉強にもなる。できるだけ学校教員が地域活動に参加できる環境を、整えていただきたい。
- 学校側からの要望等が分かりにくい、学校側が忙しそう、地域とのかわりかたに消極的と感じる
- 楽しめるイベントだけではなく、学校教育の中で地域委員会が協力できるものがあるとよい。地域の大人やお年寄りと触れ合ったり、協力できるイベントも今後できればと考えている。学校と委員会の情報共有の点では、必要な時以外はあまり情報を共有していない部分もあるので、今後活動していくにあたりそのあたりも強化していく必要があるのかもしれない。
- 地域として学校へ何処まで踏み込んで行っているのかわかりにくいところがある。

- ・情報共有の改善への要望が非常に強く、「年間予定の早期共有」や「学校側からの要望の明確化」が繰り返し挙げられています。
- ・「学校の先生方には地域の行事に顔を出してほしい」という意見は、教員の多忙化を理解しつつも、地域との対面での交流や相互理解を深めたいという地域の願いの表れです。
- ・「地域として学校へどこまで踏み込んでいかかわからない」という意見は、学校と地域の間役割分担や権限範囲の不明確さが、地域側の活動意欲や連携の深化を妨げていることを示しています。
- ・「PTA 活動の停滞化」や「子どもの居場所づくり」といった、地域の次世代育成に関する課題意識も高く、学校との連携を通じて解決したいという期待が見られます。
- ・「学校教育の中で地域委員会が協力できるもの」という意見は、単なるイベント協力に留まらない、より本質的な教育連携への意欲を示しています。

4 調査結果まとめ

(1) 各主体の回答傾向

①連携活動の実施状況について

【小学校】

- ・「地域住民による学習支援・体験活動」、「地域イベントへの児童生徒の参加・協力」、「地域住民による学校支援活動」が全ての学校で実施されており、非常に活発な連携が見られます。地域住民が児童生徒の教育活動や学校生活に直接的に関わる機会が多く、小学校教育において地域との連携が不可欠な要素となっている現状が伺えます。
- ・一方、「防災訓練への共同参加」や「学校教員と地域住民との交流会・懇談会」は実施割合が比較的低い傾向にあり、これらの分野での連携強化の余地があると考えられます。

【中学校】

- ・小学校と同様に、「地域住民による学習支援・体験活動」と「地域イベントへの児童生徒の参加・協力」が全ての学校で実施されています。生徒の主体的な地域貢献活動や、キャリア教育に繋がる職場体験などが特徴的です。
- ・しかし、「防災訓練への共同参加」は全ての学校で実施されておらず、地域の災害拠点としての役割も考慮すると、連携強化が求められる分野であると考えられます。

【地域委員会】

- ・「地域イベントへの児童生徒の参加・協力」が全ての地域で実施されており、子どもたちの地域活動への直接的な参加を重視していることを示しています。
- ・「地域住民による学校支援活動」も高割合で実施され、学校の環境維持や安全確保に貢献していると考えられます。
- ・地域が子どもたちを地域の一員として認識し、地域活動へ積極的に迎え入れている現状が伺えます。

②連携状況の評価について

【小学校・中学校】

- ・調査対象のほぼ全ての学校が現在の連携状況を「非常に良好」または「ある程度良好」と肯定的に評価しており、現状の連携活動に高い満足感を持っている様子が伺えます。

【地域委員会】

- ・大半が肯定的な評価（「非常に良好」または「ある程度良好」）ですが、2地域が「あまり良好ではない」と回答しており、一部の地域においては学校との連携に何らかの課題を感じている実情が示されています。

③児童生徒のへの貢献について

【小学校・中学校】

- ・連携活動が「郷土愛・地域への関心の醸成」、「多様な価値観に触れる機会の創出」、「社会性・コミュニケーション能力の向上」、「キャリア教育の充実」といった分野で高い貢献度があると認識されています。
- ・特に「郷土愛・地域への関心の醸成」は小学校で全ての学校、中学校で多くの学校が挙げ、地域との触れ合いが子どもたちの地域への愛着を育む上で極めて重要な要素であると認識されていることが伺えます。

【地域委員会】

- ・「児童生徒の地域への愛着が育まれた」が最も大きな成果であり、次いで「地域コミュニティの活性化」や「世代間の交流」といった、子どもたちを介した地域全体の活性化への貢献も重視されています。

④課題・困難について

【小学校】

- ・「地域人材の不足・高齢化」が最も高い課題であり、次いで「教員の負担増」と「学校行事や教育課程との調整の難しさ」が続きます。

【中学校】

- ・「学校行事や教育課程との調整の難しさ」と「教員の負担増」が最も高い課題であり、これらが複合的に絡み合い、連携活動の推進を困難にしているものと推察されます。
- ・「地域人材の不足・高齢化」も深刻な課題として認識されています。

【地域委員会】

- ・「地域住民の高齢化・担い手不足」が最も深刻な課題と認識されています。
- ・「学校教員の多忙感・連携への時間的制約」や「連携活動の企画・運営ノウハウの不足」も高い割合で挙げられており、学校・地域双方のリソース不足が共通の課題として認識されていることが伺えます。

⑤今後の連携意向について

【小学校・中学校】

- ・双方ともに「現状維持」の意向が「増やしたい」を上回っており、特に中学校でその傾向が顕著です。現在の業務量やリソースの制約から、これ以上の連携拡大は困難であるという実情を反映している可能性があります。
- ・小学校は「学習活動」、中学校は「地域行事への参加・協力」を最も深めたい分野としています。

【地域委員会】

- ・約半数が「現状維持」を望み、約4割が「増やしたい」と回答していますが、1地域は「減らしたい」という意向も示しており、現状の負担感と今後の活動のバランスを模索している状況が伺えます。
- ・「地域行事への参加・協力」を最優先し、「防災・防犯活動」「児童生徒の見守り・安全確保」も重視しています。

(2) 学校と地域の認識が一致する点

①連携の重要性と肯定的な評価

- ・学校と地域委員会の双方が、現在の連携活動を概ね良好と評価しており、今後も連携を継続していきたいという前向きな姿勢が共通しています。この相互理解と肯定的な評価は、今後の連携深化に向けた強固な基盤となると考えられます。

②主要な共通課題

- ・「地域人材の不足・高齢化」と「教員の負担増」（地域委員会側からは「学校教員の多忙感・連携への時間的制約」という2つの課題は、学校側と地域委員会側の両方で最も深刻な課題として一致しています。
- ・この問題は、連携活動の持続可能性を脅かすものであり、有効な対策が求められている課題と言えるでしょう。

③子どもへの教育的効果

- ・連携活動が「郷土愛・地域への関心の醸成」、「多様な価値観に触れる機会の創出」、「社会性・コミュニケーション能力の向上」といった、子どもたちの情操教育や社会性の育成に大きく貢献しているという認識も共通しています。
- ・これは、学校と地域が共に目指すべき共通の教育目標が存在することを示していると考えられます。

④今後の連携意向

- ・学校側（特に中学校）も地域委員会側も、「現状維持」を望む声が「増やしたい」を上回っています。
- ・これは、多忙な教員や担い手不足の地域住民にとって、これ以上の活動量の増加は困難であるという現実的なキャパシティの限界を示しています。

⑤調整役機能の強化

- ・学校側・地域委員会側双方から、学校と地域をつなぐ調整役機能への期待が高いようです。既存の担当者や橋渡し役の役割をより明確にし、その機能を強化していく必要性が言及されており、現状

の体制内における調整のための負担の重さや、その機能の不足が課題として認識されているものと思われま

⑤学校管理職の認識差

- 学校管理職（特に校長）の地域連携に対する認識や方針に差があると感じられているようです。この認識の差異は、連携活動を推進する上で円滑さを欠く要因となる可能性が指摘されており、市が主体となって管理職間の共通理解を促す働きかけを進めることで、より取り組みやすくなるのではないかとの期待が寄せられています。

(3) 学校と地域の認識に相違がある点

①情報共有の課題

- 地域委員会からは「学校からの情報共有が十分ではない」と感じる声が約2割存在しており、学校側が認識していない、あるいは対応しきれていない可能性を示しています。
- 円滑な連携を持続するためには、学校側からのより積極的かつ計画的な情報共有が不可欠であると考えられます。
- また、地域委員会側も学校への情報提供に課題を感じている団体もあり、双方向の情報交換の質の向上が求められます

②連携深化を期待する分野

- 小学校は「学習活動」、中学校は「地域行事への参加・協力」を今後最も連携を深めたい分野としています。
- これに対し、地域委員会は「地域行事への参加・協力」「防災・防犯活動」「児童生徒の見守り・安全確保」を重視しています。
- この違いは、学校が教育内容の充実や生徒の成長に焦点を当てる一方、地域は子どもたちの地域への参画、安全、そして地域コミュニティ全体の維持・発展に重きを置いているという、それぞれの役割と期待の差異を示しています。
- このニーズのズレを埋めるための対話と調整が不可欠です。

(4) 総論

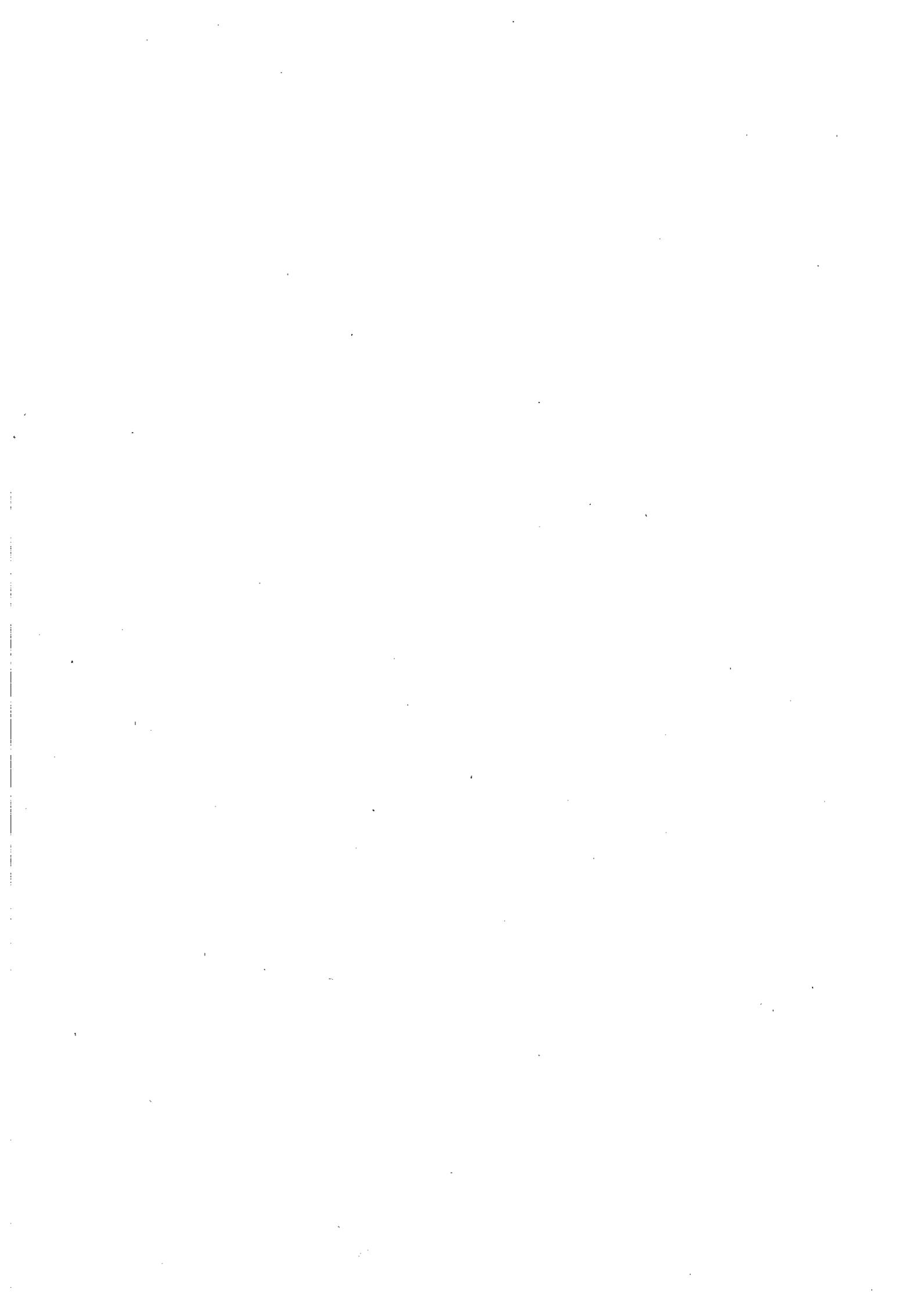
- 学校と地域委員会は、互いの連携が子どもたちの成長や地域活性化に大きく貢献していると認識し、現状の連携活動を肯定的に評価しています。
- しかしながら、この重要な連携を阻害する「地域人材の不足・高齢化」と「教員の負担増（学校教員の多忙感）」という二大課題が、学校・地域双方から最も深刻な問題として挙げられました。
- 「連携の量や形式を増やすこと」よりも「既存の連携の質を高め、継続性を確保すること」、そして「双方の負担を軽減すること」に重きを置いている現状が読み取れます。



令和8年度 関市社会教育委員・公民館運営審議会委員の会議及び研修等（予定）

日 程	内 容
6月	○第1回 社会教育委員の会・公民館運営審議会
8月21日（金）	○美濃地区社会教育研修会（中濃総合庁舎）
9月20日（金）	○SEKI いきいきフェスタ2026
10月 1日（木）	○第18回岐阜県社会教育推進大会（大垣市）
10月 8日（木） ～9日（金）	○第57回東海北陸社会教育研究大会（三重県津市）
1月 10日（日）	○関市二十歳の成人式
3月	○第2回 社会教育委員の会・公民館運営審議会

※会議は必要に応じて開催することもあります。



令和7年度 第2回 関市公民館運営審議会

日時：令和8年3月18日（水）

社会教育委員の会終了後～

場所：わかくさ・プラザ 学習情報館

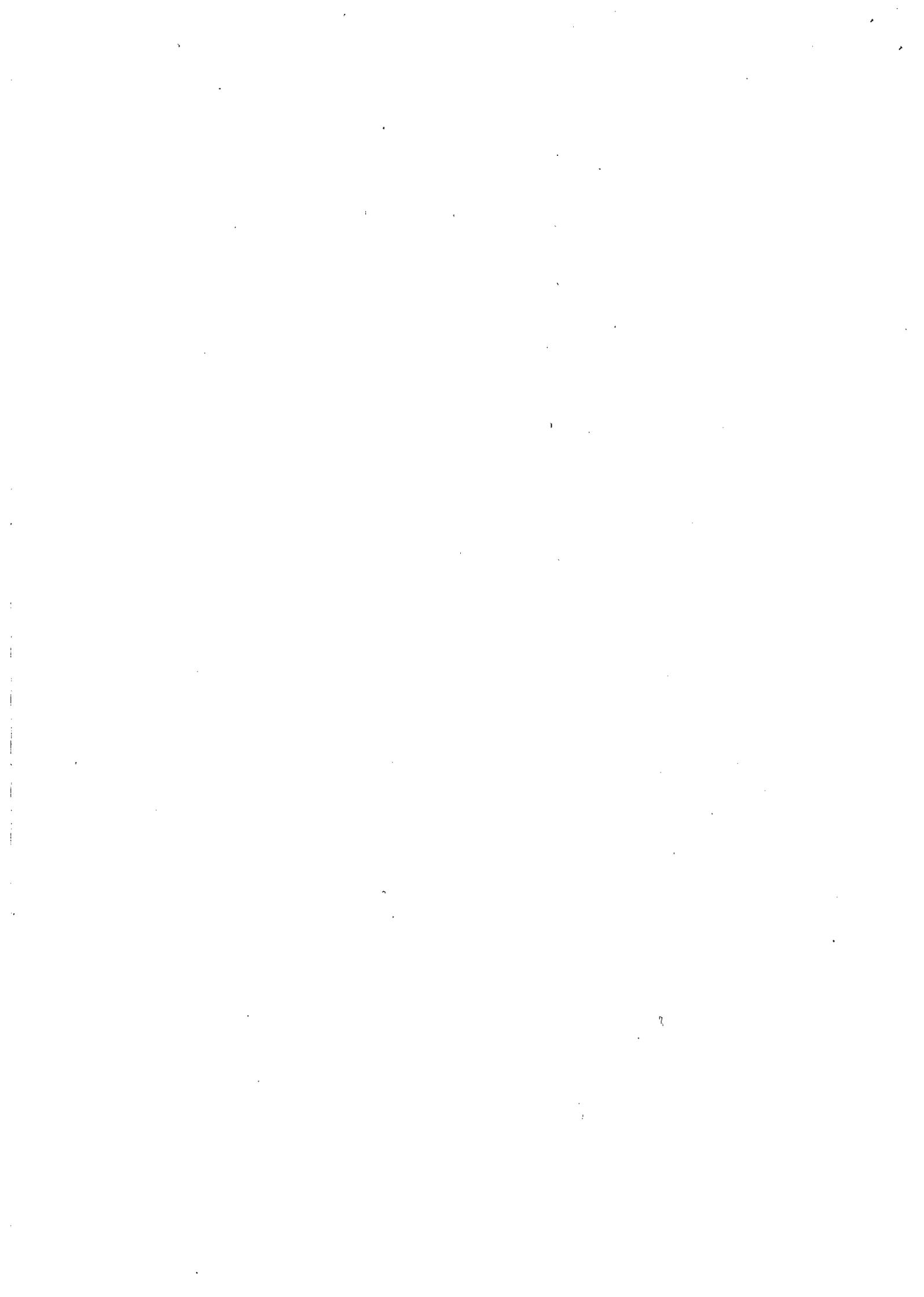
3階 3-2研修室

1 議事

1 令和7年度公民館事業実績報告……………P1～6

- ① 成人学校講座
- ② アカデミック講座
- ③ さわやか学級
- ④ 夏休み親子教室
- ⑤ 成人式
- ⑥ 結婚相談事業

2 令和8年度公民館事業予定……………P7



令和7年度 成人学校開催結果（前期） 実施期間：5月10日～10月8日

※70%以上の出席者

講座名	場所	種別	回数	定員 (当初)	応募 者数	倍率	受講者			修了者			修了率
							男	女	計	男	女	計	
1 関市 ふるさとの歴史を知る	学習情報館	教養	4	20	20	1.00	13	7	20	12	6	18	90.0%
2 関市の民俗芸能	学習情報館	教養	4	20	14	0.70	8	6	14	7	2	9	64.3%
3 読書へのいざない「ドイツ文学を読む」	学習情報館	教養	4	20	12	0.60	3	9	12	3	6	9	75.0%
4 かわいい木の実かざりを作ろう	学習情報館	趣味	4	10	14	1.40	0	13	13	0	13	13	100.0%
5 季節の旅するスープランチ	学習情報館	家庭生活	4	16	17	1.06	1	13	14	0	12	12	85.7%
6 望遠鏡で天体をみよう	学習情報館	趣味	4	10	8	0.80	5	2	7	5	2	7	100.0%
7 スマホ活用のための初心者講座	学習情報館	家庭生活	6	20	27	1.35	6	12	18	4	11	15	83.3%
8 毎日の食事づくり	学習情報館	家庭生活	4	16	19	1.19	2	14	16	2	13	15	93.8%
9 脳と心が喜ぶ音読教室	学習情報館	家庭生活	4	20	43	2.15	2	24	26	2	19	21	80.8%
10 楽しいつるし飾り講座	学習情報館	趣味	4	10	17	1.70	0	12	12	0	12	12	100.0%
11 免疫力UP 笑って元気	学習情報館	体育・レク	4	25	27	1.08	2	23	25	1	15	16	64.0%
12 初めてさんの着物からリメイク♪	学習情報館	趣味	4	10	47	4.70	0	9	9	0	9	9	100.0%
13 歌声喫茶をもう一度	学習情報館	趣味	4	30	57	1.90	5	25	30	5	22	27	90.0%
14 3B体操で楽しく健康づくり	鮎之瀬ふれあいセンター	体育・レク	4	20	22	1.10	1	19	20	0	15	15	75.0%
(前期) 中央 計				247	344	1.39	48	188	236	41	157	198	83.9%
15 体すっきり ストレッチヨーガ	武芸川生涯学習センター	体育・レク	6	20	28	1.40	2	26	28	1	6	7	25.0%
16 シニア世代の健康体操	武儀生涯学習センター	体育・レク	10	20	17	0.85	0	17	17	0	15	15	88.2%
17 もっと知りたい！食と健康	上之保生涯学習センター	家庭生活	4	15	7	0.47	0	7	7	0	5	5	71.4%
(前期) 総計				302	396	1.31	50	238	288	42	183	225	78.1%

令和7年度 成人学校開催結果（後期） 実施期間：令和7年11月4日（火）～令和8年2月28日（土）

※70%以上の出席者

講座名	場所	種別	回数	定員	応募 者数	倍率	受講者			修了者			修了率
							男	女	計	男	女	計	
1 長良川と中山道の歴史をたどる	学習情報館	教養	4	20	18	0.90	14	4	18	11	2	13	72.2%
2 環境と考古学 ～環境を知ると歴史はもっと面白い～	学習情報館	教養	7	20	17	0.85	9	8	17	8	8	16	94.1%
3 役に立つMagicで人気者になろう！	学習情報館	趣味	6	20	10	0.50	4	6	10	4	5	9	90.0%
4 朗読の楽しみ ～絵本から文芸作品まで～	学習情報館	趣味	4	20	22	1.10	1	20	21	1	20	21	100.0%
5 冬のイベントに向けた手作りおやつ講座	学習情報館	家庭生活	4	20	15	0.75	0	12	12	0	12	12	100.0%
6 将棋▲はじめての一步	学習情報館	趣味	8	12	15	1.25	8	6	14	6	3	9	64.3%
7 人生を楽にする整理収納講座	学習情報館	家庭生活	4	20	29	1.45	0	20	20	0	18	18	90.0%
8 スクラップブックと雑貨作り	学習情報館	趣味	5	15	7	0.47	0	7	7	0	4	4	57.1%
9 着付け不要？着物を活かした簡単リメイク	学習情報館	家庭生活	4	10	23	2.30	0	10	10	0	7	7	70.0%
10 ♪歌って倶楽部 歌って動いて爽でて脳トレ♪	学習情報館	趣味	6	30	34	1.13	2	32	34	2	22	24	70.6%
11 初めてのマクラメ編みで可愛い小物をつくろう	学習情報館	趣味	4	10	24	2.40	0	15	15	0	14	14	93.3%
12 心も体もスッキリヨガ	西部ふれあいセンター	体育・レク	7	20	44	2.20	3	16	19	3	13	16	84.2%
(後期) 中央 計				217	258	1.19	41	156	197	35	128	163	82.7%
13 楽しく学ぶ！認知症予防	武芸川生涯学習センター	家庭生活	3	20	14	0.70	3	11	14	2	6	8	57.1%
14 練り上げ陶芸教室	武儀生涯学習センター	家庭生活	4	15	15	1.00	5	10	15	5	10	15	100.0%
15 終活～自分らしい人生について考えてみよう～	上之保生涯学習センター	家庭生活	3	20	19	0.95	0	19	19	0	15	15	78.9%
(後期) 地区 計				55	48	0.87	8	40	48	7	31	38	79.2%
(後期) 総計				272	306	1.13	49	196	245	42	159	201	82.0%

(前期) 総計				302	396	1.3	50	238	288	42	183	225	78.1%
令和7年度 年計				574	702	1.22	99	434	533	84	342	426	79.9%

令和7年度 アカデミック講座

○前期講座（会場:多目的ホール）

延べ受講者数:426人（昨年度延べ受講者数:491人）

	開講日	講座内容	講師
1	4月26日(土)	関市の古代 ～武儀郡を中心に～	岐阜県博物館学芸員 近藤 大典
2	5月31日(土)	庶民とともに生きた円空さん	画家、詩人、歴史研究家 黒野 こうき
3	6月28日(土)	岐阜県の食文化 ～伝え継ぎたい家庭料理～	元岐阜市立女子短期大学教授 堀 光代
4	7月26日(土)	命輝く野生植物たちの素敵さ発見！ ～身の回りのありふれた植物と 伊吹山の特徴的な植物紹介～	中部学院大学非常勤講師 井上 好章
5	8月30日(土)	歴史を変えた感染症	放送大学岐阜学習センター所長 福士 秀人
6	9月27日(土)	犯罪から自分たちの生活を守る、 ～特殊詐欺、SNS犯罪、闇バイトの 被害者にも加害者にもならないために～	関警察署生活安全課長

○後期講座（会場:多目的ホール）

延べ受講者数:360人（昨年度延べ受講者数:298人）

	開講日	講座内容	講師
1	10月25日(土)	長良川の自然や水生生物 ～魚類や両生類など～	名古屋葵大学教授 小椋 郁夫
2	11月22日(土)	古地図からみた江戸時代の旅と観光	岐阜県図書館 西村 三紀郎
3	12月20日(土)	みる・きく・うたう♪吹奏楽	さくらウインドオーケストラ
4	1月31日(土)	体も心もスッキリ☆ ～ Good Sleep ～	中部学院大学准教授 高田 真澄
5	2月21日(土)	デジタルが変える市民生活	関市デジタル推進室

令和7年度 さわやか学級

○講義型 ※会場：多目的ホール

延べ受講者数：622人 (昨年度延べ受講者数：469人)

No.	開催日	講座名	講師
1	5/16	歌笑の時間だよ全員集合！？ ～ 歌うの笑うの 大好き 集まれ ～	音楽講師 安藤 磨実子
2	7/4	The 発酵！ ～ 微生物のチカラ ～	岐阜大学応用生物化学科教授 中川 智行
3	8/8	相続、遺言を少しばかりのぞいてみましょう	司法書士 平野 瞬
4	10/3	健康医学講話 ～ 健康づくりの食生活 ～	関中央病院
5	12/20	みる・きく・うたう♪吹奏楽	さくらウインドオーケストラ
6	2/13	身体の調子を整える健康体操	スタジオスクエア代表 富田 章子

○体験型

延べ受講者数：220人 (昨年度延べ受講者数：206人)

No.	開催日	講座名	講師	会場
1	4/30 5/1	カンタン！楽しい！ 季節を感じる切り絵の時間	切り絵作家 草太	学習情報館 2階創作実習室
2	6/18 20	10年後も自分の足で動ける人へ 姿勢改善・介護予防の椅子ヨガ	ヨガインストラクター 鈴木 明美	総合福祉会館 4階運動支援室
3	9/11 12	歌って脳トレ 歌って倶楽部	ゆうゆう塾®歌って倶楽部認定講師 山本 ゆかり	学習情報館 2階音楽室
4	11/12 13	”わたし時間”を楽しむマグカップ作り	食器アーティスト・講師 井戸 晴香	学習情報館 2階創作実習室
5	12/3 4	冬のお庭にアクセント!! お正月ハンギングバスケット作り	マミフラワーデザインスクール 指定教室責任者 平野 陽子	学習情報館 2階創作実習室
6	1/21 30	楽しく踊ろう 日舞エクササイズ	NOSS インストラクター 篠田 雅子	総合福祉会館 4階運動支援室

令和7年度 夏休み親子教室「ワクワクふれあい学習」

◎ 目的

豊かな人間性や社会性を培い、自ら学び自ら考える力を育てるために、親子や子ども同士でふれあう楽しい体験教室を開催する

◎ 対象

小学生とその保護者

◎ 開設場所

中央公民館（わかくさ・プラザ 学習情報館） ほか

講座名	開催日	定員	講師	参加者
1 Let's Enjoy English!	8/1	15人	関市AET ジア セクナ	15人
2 親子でお菓子作り♪	8/1	8組	洞戸地域おこし協力隊 硯見 優衣	8組 20人
3 とんぼ玉作り	8/2	10組	金森 美里	11組 25人
4 木工道具の使い方を学ぼう!	8/5 6	10人	アクティブGメン♪75 松井 勅尚	10人
5 ブラジル料理を作ろう! ～ブラジル風チュロス～	8/8	10組	関市ブラジル人相談員 エリアネ ベアトリス ミモト ダ シルバ ハマ	10組 22人
6 所蔵作品展Ⅱ 削ってランプ シェードを作ろう!	8/9	8組	古田 絵美	8組 20人
7 世界に一つだけの俳句フォト フレームを作ろう	8/13	8組	子ども文化事業「俳句の部」運営委員会 鷲見 吉直、野村 務	3組 6人
8 木の造形創作教室 ①高学年の部②低学年の部	① 7/24・ 25・29 ②	各日 10組	美術講師 他	50組 71人
9 お寺で座禅や写経を体験しよう	7/30	8組	圓通寺住職 岡田 英賢	8組 18人

【武儀地域開催】

10	ありがたや!マイお地藏さん づくり	8/3	8組	チェンソーアーティスト彫哲 丹羽 哲士	8組 17人
----	----------------------	-----	----	------------------------	-----------

【武芸川地域開催】

11	ミニひょうたんランプをつく ろう	8/8	10組	ひょうたんランプ作家 森 タ子	10組 22人
----	---------------------	-----	-----	--------------------	------------

【上之保地域開催】

12	ハンター推し!絶品 鹿から あげランチ作り	7/23	8組	26 (ジロウ) 商店ジビエ宿店主 村上 二郎	7組 16人
----	--------------------------	------	----	----------------------------	-----------

令和8年 関市成人式 日程及び会場等

1 対象者

平成17年4月2日～平成18年4月1日生まれの方
(令和3年3月(令和2年度)中学校卒業生)

2 式典

令和8年1月11日(日)開催

地域名	会場	式典開始時間
関	関市文化会館	14:30
武芸川	武芸川生涯学習センター	10:30
洞戸・板取	洞戸ふれあいセンター	11:30
武儀・上之保	武儀生涯学習センター	13:00

3 各会場の参加状況

会場	該当者数(人)	参加者数(人)	参加率(%)	前年(R7) 参加率(%)
関市文化会館	857	619	72.2	74.9
武芸川生涯学習センター	60	40	66.7	85.5
洞戸ふれあいセンター	22	20	90.9	86.4
武儀生涯学習センター	30	22	73.3	92.0
計	969	701	72.3	76.3

令和7年度結婚支援事業実績

平成31年4月より完全業務委託へ切り替え
 令和7年4月契約締結(3年契約)
 受託者:NPO法人ユメココサポート



☆ イベント・セミナーの開催

日程	内容	参加者
6月22日	ブラッシュアップセミナー&プロフィール写真撮影会 (わかくさ・プラザ)	男性5名・女性4名
7月27日	夏のスイーツ交流会 (プティ・ラパン)	男性11名・女性11名
6月6日 ~8月1日	ハッピークローバー卓球クラブ (わかくさ・プラザ)	男性26名・女性15名
9月28日	Sweets&ボードゲーム交流会 (Milk&Puzzle)	男性6名・女性6名
10月26日	ライフ&マネーセミナー×トーク会 (わかくさ・プラザ)	男性6名・女性6名
10月3日 ~12月5日	ハッピークローバー卓球クラブ (わかくさ・プラザ)	男性15名・女性11名
2月28日	冬のかんたんお料理交流会 (わかくさ・プラザ)	男性5名・女性4名
11月30日 バスツアー	五平餅作り交流会 (そばのカフェおくだ)	男性11名・女性10名
3月22日 (予定)	いちご狩りバスツアー (たわらファーム、関善光寺)	

☆ 結婚相談業務

相談員3名体制

【日中】 毎月第1・3金曜日(13:00-16:00)
 毎月第2金曜日の翌日、第4日曜日(9:00-12:00)
 【夜間】 毎月第1・3金曜日(18:00-21:00)

☆ 相談所の状況

登録会員数	(人)		
	男性	女性	
R6	111	38	3月末
R7	111	47	1月末

相談所登録者全員が
おみサポにも登録して
います。

相談件数	(人)		
	男性	女性	
R6	334	109	3月末
R7	310	122	1月末

来所者数

金曜夜171人>土曜112人>日曜87人>金曜昼61人

オンライン

金曜夜1人

☆ 県広域ネットワーク・おみサポ

登録会員数	(人)		
	男性	女性	
R6	111	38	3月末
R7	111	47	1月末

今年度の成果(1月末)

* お見合い成立人数 181人
 * 交際への発展 54人
 * 成婚 5人

(成婚について)

関市×他市 1人
 関市×非会員 4人

令和8年度 公民館事業予定

1 成人学校

「生涯学習のきっかけ作り」を目的としており、多くの市民が参加しやすい講座を計画し、4月（前期）と10月（後期）に募集します。（対象15歳以上）

2 アカデミック講座

アカデミック講座は「自然や歴史・文化など総合的に学習してよりよい社会を築くこと」が目的であり、専門的な学習を提供します。

前期講座は4月広報で募集し、後期講座については10月広報で募集します。

3 さわやか学級

65歳以上を対象に、「ふれあいの楽しさや健やかな健康、豊かな人生を求めて生涯学習に取り組み、生きがいのある生活を送ること」を目的とし、健康・食・運動などバラエティに富んだ内容の講座を実施します。講義型と体験型の講座にわけて、それぞれ募集します。

4 親子講座

親子や子ども同士のふれあいを目的として、夏休みの期間を利用して計画します。小学生を対象に7月広報で募集します。

5 二十歳の成人式

令和9年1月10日（日）開催予定。

関会場、洞戸・板取会場、武芸川会場、武儀・上之保会場の4会場で実施予定。

各地域ごとに、新成人による実行委員会が企画・運営を行います。

6 結婚相談

婚活事業は民間事業へ委託しており、結婚相談業務やイベントを実施しています。

相談窓口は、中央公民館をメインとします。またアウトリーチなどにより、関市婚活サポートセンターのPRに努めます。

7 工事实施に伴う中央公民館（学習情報館）の休館について

アテナ工業アリーナ（総合体育館）の大規模改修に合わせて、学習情報館の自動火災報知機の更新工事を実施いたします。それに伴い、学習情報館（図書館を含む）は、10月から1月までの4ヶ月間、休館となります。休館期間中は、各種講座や結婚相談について、別途会場を確保して実施いたします。

